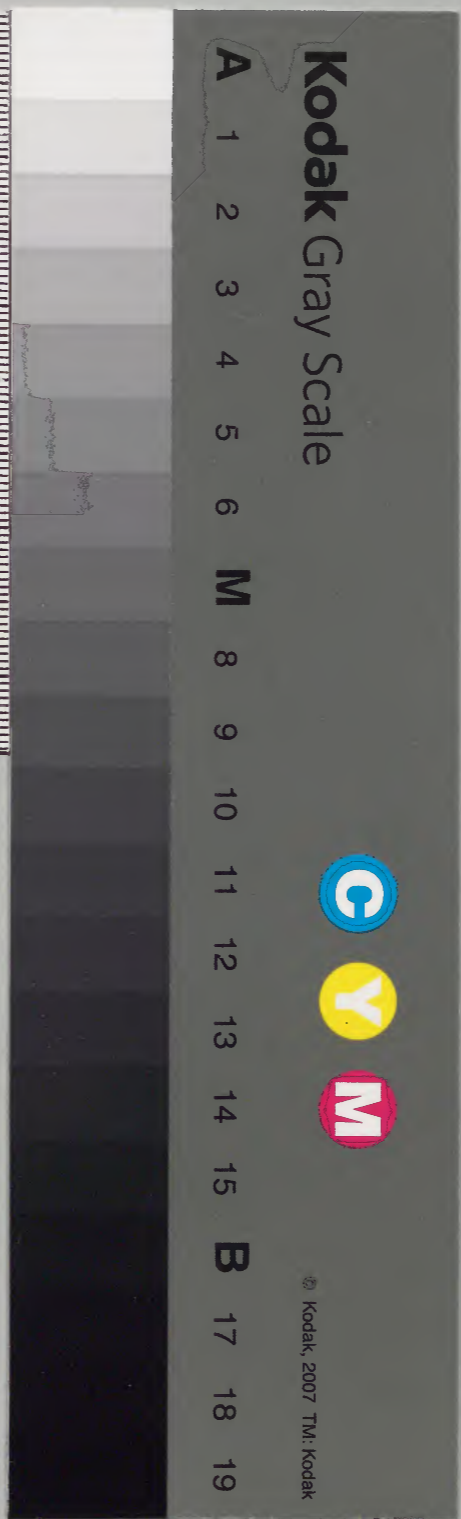


日本書紀傳 五卷下

和書
一〇五二號

| | | |
|------|---------|-------|
| 内閣文庫 | | |
| 番號 | 和 | 10522 |
| 冊數 | 156(16) | |
| 函號 | 特 | 85 1 |



青島市立図書館蔵

清文堂印

清文堂印

青島市立図書館蔵

少子也

一書曰此二神青檀城根尊

口訣云二神者伊弉諾尊伊弉册尊也子也者云次義と有る如く其生坐らふハ非すと雖も其世次を以て此

古傳を天柱國柱と底津石根と太敷立て動く事無き
小至りて我が古傳小合ふ物と正と一眞と我が古
説小乖けり者と邪と一偽と爲り撰び方有て我師の
如き神眼と具へたり大偉人ハ非ずハ猶ある入の
出來べし事ハ非ハ中ニある物損ひを成むハ可
唯我ハ神傳の古説を守りて有る心痛事ありけり
事ありけれ頃者京江戸ハ神典窮理と云て俗士共
を驚らす安説の起りけりある心痛事ありけり
アルファミニイハクノコノフクニラカミハ。アリカニ
ネハミニト

内一二六八三號

日本書紀傳五

百二

小子といふるあり男女適合して御子を生坐るハ二
 柱御祖神ハ始りて此ハ後の事ハ有ければ信ハ
 口訣の説謂れりハ諸此青檀城根尊ハ申奉りハ古
 の正書ハ所見えたるハ如く惶根尊の御名あり然る
 舊事紀ハ六代糺生天神青檀城根尊ハ亦云沫蕩尊
 妹吾屋檀城根尊ハ亦云惶根尊ハと書せりハ此亦曰
 青檀城根尊亦曰吾屋檀城尊ハ並出たりハ御妹妹小
 御在ハ坐す如心得違へたりハ僻事あり右の如くハ男
 神ハ女神ハ唯青の哀ハ吾屋ハ屋ハ一言のハ差
 別ハ更ハ小男女の義と見り所無ハ古傳ハ聞ハ

〰〰の推當あり又沫蕩尊と亦名と爲るハ次の第八
 一書小沫蕩尊生伊弉諾尊と云ハ附會ハなりハ事見
 元又面足尊と亦名と爲るハ此ハ二神青檀城根尊
 之後ハ也ハ有ハてハ此を面足尊ハ思ハ寄ハるハ所
 爲ハ其巧ハ甚拙ハ見ゆハのハ口訣ハ以ハ面足
 之名二神共ハ体ハ有ハ面背之義ハ以ハ惶根之名二神備陽根陰
 根之義也ハ亦曰者以ハ一名爲ハ二神名也ハと云ハもハ舊
 事紀ハ延ハたハるハ誤ハありハ此陸大戸之道尊大戸之邊尊
 伊弉諾尊伊弉冊尊ハ如ハくハ一ハ名ハをハ以ハてハ二ハ神ハ御名
 と爲る事ハハハ有ハれハもハ道と邊とを以て分り岐と美

ハ彼造化の首を成り給ふ三神の御靈も資て天中の
一物の成出たる其物より別れ昇りて天先成り其天
より神靈の天降り御在り坐て地後定り國土の成始り次第
ふ合せて神の御名を列擧たる者ありは如此く傳ふ
るも亦一の傳ふて事實ふ合せ心得りば更ふ異あり
所あり非りける斯れは神の成坐る傳へる迄も無
別天神五御代次ふ此神世七御代の如くと雖も天
地の始めて立定り次序を心得り事何れ此傳ふハ
勝れりけり私記ふ問一書國常立尊主天鏡尊天鏡尊
主天萬尊云云既全云生其意如何答是後代之見代ニ

相嗣而假謂之生未必事實也と云る如く代ニ相嗣
謂ふハ本より非り事あり其味あり此中ふ在り事
ありけり但此事古より明りありけり所見
談の生者神鳥此理所謂神者鏡也天鏡天萬沫蕩者國
常立尊之明理伊非諾尊之明事明事即明理明理即明
事也と如き空理を説き事實を誤りて本より一と
類の妄説の如く説成故其國常立尊生天鏡尊と有
るふじハ本より妄あり
此天鏡尊と申奉るハ寶鏡開始章第一一書ハ所
見たる石凝姥命を神宮の書共ハ天鏡命と有ハ鏡作
神の謂ふ此ハ別ふ事傳二十丁ハ云るが如
し此小鏡と有ハ炫火又炫日の謂ふ彼葦舟の如く

此の在べき事ありけり又其國推地推と云るハ泥土
煮尊汝土煮尊の御名の起る所以あり故尊丹一書ハ
ハ其中生一物如葦丹之初生塗中也と有り己ハ云
り如く此ハ伊弉諾伊弉冉二神の幼き御名ありが國
常立尊と共ハ一物ハ就て成出させ御在り坐けりも
灼く此萌騰りて成れる天と云も天照太神の所知食
す御事ハ成れり將此國土を母として天日ハ生れた
る事を思ひ此二共ハ疑ハハ無ハ者あり
國常立尊ハ正ハ此國土ハ俱生坐り神
事ハ怪ハリて人皆此一書ハ傳ハ物ハ爲ガリ
事ハれガリ斯ハ事ハ知得ハハ皆ハ天

地の始の狀あり目ハ見ル如く明ハあり可ハ事ハ
りハ照ハ神ハ一ハ伊弉諾伊弉冉二神の御子ハ御在
り坐せハ國土ハ所ハ知食ハ可ハ御事ハ高天
原ハ不審ハ事ハ授奉ハ給ハ人皆怪ハリ
ハ大ハ疑ハて大ハ開ハ可ハ所ハ其近ハ推究
ハ疑ハ可ハ所ハ疑ハ疑ハ所ハ疑ハ
帝ハ人の習ハあり故又其天鏡尊生天萬尊
天鏡尊ハ一ハ被葦丹の如く萌騰ル物を以て天日
の御國を立させ御在り坐けり其天日と天の最中
ハ定給ハ天の最上ハ日之次宮を立させ給ハ其本
ハ天壁立極ハ具ハ成ハ給ハ國土ハ面足尊

と称奉る神の御在り坐と異る事無き御名の渡りせ
給ふ事次小説るが如し然し其神ハ誰の御在り坐
む天常立尊小御在り坐す事申すも更なる者あり
故國常立尊の生坐多し云ふハ非れども可美葦丹
彦等尊の其葦丹の如くありし物を引上り給へ
る其子の運の常り又其物小因て天の若又天萬尊
處を立させ給へり又其子の運あり
生沫蕩尊と云事ハ古事記小速秋津日子速秋津
比賣二神因河海持別而生神名沫那藝神次沫那美神
と百心同名あり異神あり記傳五三十九下沫ハ字の
如く那藝ハ水上の和なる意那美ハ水上の騒ぐと云
ありと説けたりけり此ハ其の同意、別義と此

と正し見りふ其ハ大小異なる所有る者ありと有
ける沫蕩此云阿和那伎と云ハ阿和ハ八洲起元章小
是獲滄溟と云其物の事ありて師説の如く此大地
の全と云稱あり事次小云るハ如し那伎ハ成君の義
ありけり此小對入て女神ハ字ハ如何書りあり阿
和那美と申す御名も御在り坐す事推て考ふ可き
者あり然るも天萬尊若天常立尊ありしハ何故小
此沫蕩尊と生給へり云ふ此ハ大小故有る事ハ
ありけり然るハ彼一物より葦丹の如き物の上去りて
殘留すれり此國土ハ猶水月あり浮漂ふてあり

お有けり多を漸ニ國土と成定りる小至りるハ全ク
 彼沫の凝固りる依れる其沫ハ何レ成りる
 云ふ天日の光ハ蒸りて水ハ沸き依て出來る者ハ
 有けれバ天先定りて地後ハ定るあり此事ハ依り
 可レ事ハありけり故ニ沫蕩尊ト云て其實ハ湓土煮尊
 汝土煮尊以下ノ御名ノ如ク伊弉諾伊弉冉尊ニ神ノ
 早キ時ノ御名ありハ此傳ハ己ハ一世トシて沫
 蕩尊生伊弉諾尊トハ云ふ百けり其也亦何カ
ト云ふ右ハ引り舊事紀ハ青檀城根尊ト書して
 細書ハ亦云沫蕩尊亦云面足尊ト有り青檀根尊ハ惶
 根尊ハ渡り給へ其ト此ト混一鳥ハ誤
 あり事本ハ論を待た然レ沫蕩尊面足尊を相

〇火之炫昆神の
 例は唯く天との
 訓奉り宿此

並バ難シ心り捨り ○天鏡尊ハ鏡ハ借字あり彼葦子如
 く萌騰り由ハ依て炫火ノ義あり此物ハ依て即
 天日ノ御國ハ立りけり炫日ノ義あり火ト日ト相
 同ト正書ハ天ト成り物ノ事ト其清陽者薄靡而為
 天ト有ガ如ク淳膏ハ如クあり物ノ中ハ生出たり
 と雖モ其實ハ清ク澄リ明クあり物ハ其下ハ
 精妙之合搏易ト有て麗美ト微妙あり物ト通し
 此ハ然成定り上りて遠ク此を瞻望奉りハ實ハ
 明麗ハ事真澄鏡ノ如ク有り記ハ被鏡ハ
 眩カ所見あり同ト義を以て諾し天鏡尊トハ大御

名小負せ給へりける 諸加賀美の加賀ハ明明の言の
功此のあり可一古事記ハ火神の亦名別謂火之炫昆
古神亦名謂火之迦具工神加具ニ
一字以音有炫之迦具と
共ハ火の光耀を云ふなりハ天孫降臨章ハ螢火光神又
神名ハ星神香香皆男有り其香香も炫あり事古ハ同
一其書一書ハ猿田彦神の事を口尻明耀眼如ハ咫
鏡而絶然似赤酸醬也と見え人名ハ古事記日代宮
段ハ訶具漏比賣又柴垣宮段ハ甲斐郎女を御紀ハ香
火姫皇女と有り安閑天皇元年御紀の香香有媛又
作物語ハ竹取の香具耶姫あどハ身ハ光と放

てる由を以て号けたるあり何れも香ハ又香具ハ炫
の義あり者あり猶其火之炫昆古神ハ就ハ記傳五
ハ炫靈異記ハと加也計利と訓ハ字書ハ耀光也ハ火
光也ハ明也ハ註せりハ猶出雲神賀詞ハ夜
波カハクハ如火光神在利又其國ハ風土記ハ楯縫郡加賀郷
中御祖神魂命御子支佐加比比賣命閨岩屋哉詔金弓
以射時光加加明也故云加ニと見え又倭姫命世記ハ
有靈物照耀テラアヤト如日月奈
利と云ハ遊仙窟ハ熠耀と加賀夜
久ハ訓ハ又伯明ハ益原明ハ麻婆由伎又加賀婆由
志ハ訓有ハ何れも加賀ハ火ハ在ハ日ハ在ハ其光

華の韻ニホひ出ると云言と通元たり儲鏡の美を日と云
事ハ舊事紀ハ天八百日尊と有之細書ハ獨化天神第
四世之神也と有之獨化といハ古事記ハ謂ゆる獨神成
生と云事あり上ハ三世ハ天御中主尊高皇產靈尊
神皇產靈尊の三神を立て次ハ可美葦牙彦尊尊ハ
實ハ四世ハ御在ハ坐セバ此ハ當山と又天地開闢
の次第と以云時ハ國常立尊也此一物有之其ハ前
騰れ故ハ國常立尊生天鏡尊と有之如くして別不
るハ如くありども其ハ合セ見ル可事ハ實ハハ
同ト事其事意と説て曉ル可事者あり儲其八百日

と云ハ上ナニハ註ルハ如く星の事あり彼角凝魂命
とも申奉りて八百細十細打延へて天壁立給へり
御功用ハ合セ思ふ可事者あり如く云時ハ天
も皆彼一物ハ此國常立尊の國土より生出たりと
云ハ成れハ此大地のハと以て右等ハ大を成事
と如何と思ふ可事あり天地の初ハ天中ハ成出
たり彼一物を除て何物ハ有之若此外ハ物有之と
ありハ一物とい傳ル者ありをハ三大考ハ
也此を譬へて近ハ人身の成れハ始ハて也知ハ
父母の文合の時ハ滴ハ物ハ微ハれども月と經て
兒の形と成ハ非ずや又人ハ鳥獸虫魚も生出た
る時ハ猶ハとけれども漸ハ大ハ成ル其中心ハ殊
ハ蛇ハどハ生れたり程ハ尋常ハ小ハ出ル其年久ハ
く經て大蛇と成ルハ至りてハ殊の外ハ大ハ形ハ
トザヤ又草木も同ト事ハ生初たり二葉の時ハ甚
小ハとけれども年を経ハ雲居を凌ハ大木と成リ者
ありと譬ハ云ハ如く彼景行天皇御十八年御紀ハ列

筑紫後國御木居高田行宮時有檀樹長九百七十大焉
 踏其樹而往來云有^一老夫曰是樹者歷木也嘗未檀
 之先當朝日暉則隱^一杵島山當^一日暉覆河蘓山也云
 り^一老夫^一小聞て知る程の事ありけ^一其御也^一
 遠^一以前の事あり可^一小折殘り所當時九百七十
 丈と聞ゆ^一其^一半信を加へて九十四五百丈程の
 立木あり^一可^一此と間敷^一直して二百五百間
 許今の里敷^一積りて^一六里半余の大木あり^一雖も其
 實生の時^一徑^一長四五分^一足^一ぶ^一殼^一を割て出た
 る^一めて其實^一倍^一事幾^一百十^一万倍^一も知^一る^一程
 の事あり^一又其^一大木^一小生^一れ^一實^一小實^一と殖^一継^一ひ^一天
 下の大^一あり^一植^一盡^一す^一可^一程^一の事あり^一ヤ今^一此^一小譬
 小取^一れ^一其^一實^一生の^一實^一ハ^一謂^一ゆ^一一^一物^一あり^一大^一木^一ハ^一天
 日あり^一枝^一葉^一ハ^一列^一星^一あり^一寄^一生^一ハ^一緯^一星^一あり^一根^一株^一ハ^一大^一地
 あり^一又^一其^一枝^一葉^一ハ^一成^一れ^一實^一落^一て^一又^一別^一小^一生^一出^一る^一も^一有^一べ
 一^一恒^一天^一の^一星^一辰^一ハ^一是^一あり^一此^一僅^一あり^一實^一より^一杵^一島^一阿^一蘇
 の^一高^一山^一と^一覆^一隱^一す^一を^一以^一て^一彼^一造^一化^一三^一神^一の^一御^一靈^一小^一依^一て
 天^一中^一小^一成^一出^一た^一り^一一^一物^一即^一根^一と^一成^一て^一天^一象^一地^一儀^一如^一此^一
 小^一成^一れ^一る^一者^一を^一何^一の^一疑^一と^一容^一べ^一し^一○^一天^一萬^一尊^一ハ^一天^一之^一と^一讀^一奉^一り^一可^一即

是天と具ひ成し給へり意の御名ある者あり萬ハ數
 名ありも百十小寄合て具成れる杵あり事已小傳三
 七十 小云ら^一如^一此^一も^一其^一同^一言^一あり^一小^一寄^一又^一ハ^一歡^一ふ
 一^一又^一善^一惡^一の^一善^一也^一も^一共^一小^一同^一意^一あり^一あり^一其^一ハ^一万^一葉^一一^一
 小山常度村山有等取與呂布天乃杵具山云と見元
 たる取與呂布ハ足具^一ハ^一義^一あり^一不足^一ハ^一事^一無^一く^一形^一容
 を備へたるを云^一傳^一は^一て^一其^一三^一耳^一爲^一之^一青^一菅^一山^一者^一云^一
 宜名倍神佐備立有^一三^一小^一宜^一奈^一倍^一吾^一皆^一乃^一君^一之^一負^一來^一
 尔之此勢能山子妹者不喚^一六^一小^一神^一佐^一備^一而^一見^一者^一貴^一
 久宜名倍見者清之と有^一宜^一名^一倍^一也^一宜^一並^一と^一云^一事^一あり^一

△同卷評小比並之宜
 國跡川次之立合縁
 等跡にも有て
 一に宜なる立合
 云ふ立合の物具は美
 妙なりとも是れ見り可

與呂布と與呂志と同トス御贖儀の荒世和世の御服
 と江次第小色葉字類抄の豆志余呂比御服と
 見元執政所抄宮中祭文の綿布津志與呂比ルと有
 経調へず綴り意を以て称する可一戎衣と具足と
 書て與呂比と訓ひ悉く備はると云ひ装束と與曾
 比と云ふ右小同トイ此ハ宜字と與呂志とと與志と
 也訓ひ又因とも依とも與流とも與志とも訓ひ同
 義ありて善惡の善も物も成整ひ備はれると云ふ
 て其言異なる小非ず借此與呂豆の都に謂ゆる天
 津神國津神ふじの津ふて津ハ予ハ常小説ハ如く處

字の義ありて天萬尊と申奉りて天之萬處尊と申す義
 と通えたり右の天鏡尊の下小引り舊事紀の天八
 百日尊の次ある天八十萬魂尊と有て細書小獨化天
 神尊五世之神也と云ふハ天常立尊小合水バ正一
 其同神小御在一坐す御事ハ知るるめり借其萬と云
 ひ八十萬と云ふ天の處ハ謂ゆる天壁立つ極小在り
 恒星ありずハ何とハ差て稱り可又此萬小具足
 の義有り装束の義有り正書ハ天先成而地後定と云
 事の此天常立尊小係なる事思合す可然れ者あり
 天鏡尊生天萬尊と有りて被葺毎の如く萌騰此物
 たり天の成定時までと兼たる御名あり御

在し坐けり因ふ云ふ神名式小越前國敦賀郡天八百
萬比咩神社之有ハ本より別神あり此例を以て
推し天八百萬魂尊と申べし御名の狀あり然れハ
八百萬神と八十萬神と換つる頃あり改なりけむ
も知べし ○沫蕩尊下小沫蕩此云阿和那伎と有之伎ハ
男神の稱ある事已の上 下小註り如し然れハ此
小對して女神小沫那美尊と申奉り御名御在し坐べ
し御事申すも更あり然るハ此ハ沫成君と申奉り意
ありと何を以て天萬尊の此神とハ生せさせ御在し
坐けりかありハ彼浮膏より涇土と成り沙土と成り
國土と成れる其始ハ水より沫と成り然るあり涇土
と成り沙土と成り國土と成り物ありハ故ハ八洲

起元章ふハ彼一物の全體と滄海と云り師説ハ滄海
とい即彼一物の事めし此國土と惣て云ふ古言あり
と云れりハ然る事あり然るハ其葦芥の如くして
萌騰けりハ程ハ大地も未凝り可き所あり坐くざり
て或ハ游魚の水上の浮べりハ如く又ハ海上あり浮
雲の根係り所無か如くして漂在りけむと天先此ハ
己小成れりけむハ其天日小從ひて大地の回布出來
又其小就てハ晝夜の動いふども出來て天日の光輝
を等しく受て其氣大地ハ融通れり故ハ涇土沙土
を分つ事小至れりけむハ沫ハ其本小在りハ故ハ然

御名ハ御在り坐けり所思しけり實ハ此の所
即天常立尊生沫蕩尊と云ふ御事迹ふして始ハ此大
地より判りて天と成り又天より生じて此大地の
定まり謂れおむ妙小奇一の事ありけり然れハ此の
ハ一も天地開闢の狀と云教へさせ給はむ又して各
其神の成坐る御事より其御事迹の次序を並べて
其御功の趣を傳へさせ給はむ者ありて神代の遠
きも今此小見らる如く神功の大ありも眼前るが
如く傳へさせ給はむ者ありて斯れハ滄海と沫生
實ハ奇異ありける御事共あり之原と云事ありや
百べりも其ハ八洲起元章ハ
是獲滄溟其斧鋒瀾瀝之潮凝成一島名之曰破馭盧鳴
と百が如く此島を根と一本と爲させ御在り坐て大

八洲國を生給ひ然後ハ即對馬島壹岐島及處ニ小島
皆是潮沫凝成者也亦曰水沫凝而成也と有及字ハ
大より小及わす義ありども外國の始ハ予が謂ゆ
る野蛭兒淡州と云ふ是即此の處ニ小島
多物ありけりハ大八洲國の大ハ對へる者ありけ
り此意を説て記傳五ニ十ハ處ニ小島と有ハ必しも
小洲ニ島のみハ限る可くはず大八島ハ外ありを
皆凡て如此ハ云ふありハ其中ハ大洲ありも有が
り然れハ皇國ハ屬る島のみありず諸の外國を
も大洲と云ふ洲と云ふ皆此中ニ爲らるありと云

此の幾十萬、廣く知べし者、此大八洲國、此の
 漸次凝成、外國共い、此大八洲國、此の
 沫より成出たりと云を以て、滄海の沫を生じて國
 を成す處ありと知べき者、此の委しく傳
 六十九、七十、八十一、九十、十、四百七、小云、説共をあむ合
 世考ふ可き者あり、今も浮石あり、海上に凝を見り
 漂在ふあるが、何時と無く固まりて石と成り、又川水
 を立し、御在し坐す神の御上、於て如何なる事
 を成し、出せ給ふ可き者あり、此の如何なる事
 蒸鳥、重腹、白露、陰滋、陽長、吹息、不息、遂、詔、然、内、空、有、若、浮

此の引く、生島、縁
 起し、凝成、沫、而、爲
 巖、積、風、塵、而、爲、島
 百、り、古、傳、に、傳、へ、り、す

滄、日月星辰、從此震兵、故造天元、起于微氣、于空、應中、陽
 氣噴薄、煙爲野鳥、蒸埃日飛、露聚旋轉、凝中遂、坏然、内實
 有若、彈丸、大地山川、從茲始矣、故地原起于微、蒸、見元
 蒸埃、成り、其の事、大地山川、此物、天氣を得て、凝て、野馬
 も、得たり、又斯る事、思はれ、けり、と云事、ハ、能
 義、諫、阿和、實、の、音、の、義、古語、大、空、の、壁
 立、極、の、音、雲、能、靄、極、の、音、大地、の、廣、状、と、青海、原
 湖、之、入、百、重、と、云、如、く、青色、即、天地、の、初、其、震、雅
 思、ゆ、又、上、八十、面、足、尊、の、下、引、生、島、神、詞、小、生、國
 事、あり、御、名、者、白、氏、辭、竟、奉、者、皇、神、能、敷、坐、島、能、八十、島
 者、谷、模、能、狹、度、極、鹽、沫、能、留、限、狹、國、者、廣、久、峻、國、者、平、久
 島、能、八十、島、陸、事、無、皇、神、等、能、依、左、奉、と、見、元、乃、鹽、沫
 能、留、極、下、あり、狹、國、者、廣、久、と、云、對、入、語、も、古

の御紀小處ニ小島皆是潮沫凝成者也亦曰水沫凝而
成也と有る合々文ありて其初ハ處ニ小島と云け
る程の事ありと漸今レニ潮沫水沫の凝成ニ外蕃諸國
ハ神代を過て後ハ成居ル事あり是ハ狹國ハ廣ク
と云ベシ狀あり有ける本草和名ハ鹵鹹陶景注云
是煎鹽釜
下凝 和名阿和之保と有る鹽ハ釜より流下りて凝固
澤也 澤と阿和と云あり此等と合せて滄海ハ沫生
之原あり事を知べく國土。基ハ又其潮沫水沫ハ因
此ハ事とあり知べく有り。文安元年宗像縁起ハ寫
一神ハ海淡と集めて島と築居と遠海の奥ニ一

給ふハ末世ハ至リ迄異國を降伏し給ふ可き由御誓
有て彼島ハ留給ふと有る即瑞珠盟約章第二一書ハ
謂ゆる遠瀛の事あり是潮沫の凝て島と成れりハ
リ又竹生島縁起ハ爰淺井姬命與氣吹雄命競勢争力
更ニ北邊下坐海中其下海音云都布ニ故云都布夫
島即件神凝水沫而爲磐積風莖而成島と有る是水沫
の凝て島と成れり此等も同トク神代の事あり
リ小伊弉諾尊伊弉册尊よりハ遙今レハ後の事ありども
猶斯ハ事共多在り又今レ外今レハ新地今レと此彼見出る由云
ハ本より有ける島と始て見知れるも有べく又更

此地大地上十の諸
 國ありて其地を國
 の根底同しと云ふ
 水は其土に生ずる
 一て内海と外海と
 ありて其地を國
 水より上りて其地
 國土なりと云ふ
 故大地上の諸國は
 水より上りて其地
 國土なりと云ふ
 所以此の地は其地

小潮沫水沫の凝寄て島嶼の形を作せり也百べく共
 小生島足島神と申す御在坐二柱御祖神の絶て
 國の八十國島の八十島を巡作り御在坐事此の
 實叙出現章第六一書の傳ふ云べく己の祝詞講義
 小委しく説注せらるを合せ讀て曉る可と者あり也
 けり然れ此沫蕩尊と申奉る國土の始と所知食
 御名あり此沫より國土の生出たる者あり故
 此小沫蕩尊生伊弉諾尊と云て實小謂れ有る事あり
 七有ける然れども其沫蕩尊と申す別神の御在
 坐す正しく其同神小渡り給ふ事申すも更あり
 其故

潮沫の凝て成り外國の中あり赤縣州最古なり
 師の赤縣太古傳三皇紀の八皇氏九頭九男相像其身
 九章故曰九皇云と出谷口分九河依山川土地之勢裁
 度鳥九洲謂之九圍因是而區別各居其一故曰居方氏
 人皇乃居中州以制八輔此名州之始也且有八洛書靈
 准聽と春秋命歷序又世史類編等小在り人皇氏の事
 實を集めて文を成れり者あり其説小入皇氏の
 我々須佐之男命小坐り御父伊弉那岐命の勅小青海
 原潮之八百重と所知背せと事依り給り是あり九
 頭九男ハ大九洲と裁度せり島小九男子小分身
 給へり云と出谷口扶桑域内あり賜谷の地より
 出給へり由あり分山河依山川土地之勢裁度鳥九洲
 と云ハ國土の初ハ潮小土破の混淆と謂ゆる泥海
 と云趣ありと天皇氏の天柱五岳五給ひり人皇氏の
 小堅り漸り山川海陸の形成れり人皇氏の
 裁度りて九圍小區別九洲と鳥給へり由あり其
 九洲ハ赤縣域内あり禹貢の九州と云る非ず謂ゆ
 る大九州の事あり此國土の全と云る其ハ河圖
 括地象小崑崙之墟下洞含石赤縣之州是爲中則東南
 神州曰晨土正南迎州曰沃土西南戎州曰滔土西南州

○日本書紀傳五

●百十八

曰并土一正中冀州曰申土西北桂州曰肥土正北玄州曰
 成土東北咸州曰隱土正東揚州曰申土と有る是あり
 其詳ある事ハ本書小就て見べし餘りハ説得て妙
 りハ故ハ今抄出たるもの右の如く又皇氏の九州ハ
 裁度一給へども外蕃諸國の成定ゆるハ其よりハ遠
 小後ハたゞ事少て其一ニを云つて赤縣州少く三皇
 五帝と聞ゆるハ師の三五本國考ハ註されたる如
 く我ハ皇神等の彼ハ出興せさせ給へるふハ皇國
 小亞てハ古よりハ可く又韓郷之島ハ寶劍出現章等
 四五一書ハ素戔鳴尊ハ御事有る古く其ハ次てハ印
 度あり可ハ梵天子と云ハ天墜して教法の師ハ由
 云ハ其ハハ次彦名命ハ御在ハ坐す事實ハ師ハ云れた
 りハ如ハ若ハ洋西の惣本國と云ハ是流麻ハ河と
 云ハ國の王の生れたるハ我ハ重仁天皇三十年辛酉
 小當此ハ此王ハ始て國ハ開けたりハ故ハ其初年
 其年紀を用ふと云ハ一十八百余年と云ハ西洋諸國ハ
 今ハ一十八百余年ハ初て蠢化の民の出來ハ
 小を以て其餘ハ國ハ其ハ後ハ開け今ハ新紅毛
 あり云ハ出來れると以てハ次ハ潮沫水沫の海原

允八神矣乾坤之道相參而化

所以成此男女自國常立尊迄

伊弉諾尊伊弉册尊是謂神世

七代者矣

小疑て國形を成し居る事を知べく又此を以てハ神
 代の古傳説の万世の後ハ至りて若此ハ信驗百と以
 て驚ろく可ハ且恐
 り可ハと知ハ可ハ
 アハセテ
 ヤハシテノカミニセリケルアメ
 ツチノ
 ミチ
 アヒニヒハリ
 テ
 ナリセリ

凡八神矣、右の涇土煮尊、汝土煮尊、より次、伊弉諾
尊、伊弉册尊、より至る迄の數、もて口訣、謂ゆる此と四
代八神段と云ふ是より古事記、ハ次、雙十神各合二
神、云一代也と有て五代十神、是正説なりと雖も
上三十一下六云々、如く御紀、ハ上の二柱を國常立尊
國狹槌尊、豐斟淳尊と出て、其亦名と別神として、凡三
神矣と有り、推して此ハ角楯尊、活楯尊の二神と除
くれ終、ハ四代八神とハ爲り、然るに、猶收り
難く、ハ有けし、凡九、一書ハ、大戸之道、尊、大戸之邊、尊
と削去て、其二神と被加たり、斯レハ、四代八神と云事

ハ古事記、より後、御紀、ハ始、ハ事、ありけり
口訣、ハ角楯、活楯、大戸之道、大若邊、別名、道邊之、古語、
と云々、ハ、若し、いふ、説、あり、道邊ハ、男女、根、の、称、あり、
事、上、ハ、註、り、ハ、如、し、何、
其、一、ハ、成、べ、し、
○乾坤之道、相參、而、化、所以、成、此、
男女と云ハ、上ハ、凡三神矣、乾道、獨、化、所以、成、此、純男と
有、對、ハ、書、と、ハ、ハ、者、ハ、上、ハ、古事記、ハ、國
之、常、立、神、次、豐、雲、野、神、此、二柱、神、亦、獨、神、成、坐、而、隱、身、也
と云、ハ、古傳、多、ハ、此、ハ、三神、と、ハ、易、ハ、創、文、を、引、付
けて、如此、ハ、物、爲、り、ハ、ハ、ハ、事、傳、三、
百、一、ハ、註、り、
如、ハ、古事記、ハ、某、神、次、妹、某、神、と、並、書、り、
此、ハ、雙、神
と註、り、
此、ハ、凡九、一書、ハ、男、女、耦、生、之、神、云、と、有

有る是ハ古傳の仕ふる然文を成されたる者あり
て古義あり合はざる者あり古事記ハ古語の仕ふる
二柱獨神各云一代次雙十神各合二神云一代也
有て見、目易くあり有ける
又上ある三神の御事ハ乾
道と云事ハ本ハ誤あり
其ハ易の乾の篆傳ハ乾道變化各正姓名保合大和乃
利貞万国咸寧と云文ハ取られたるあり可けれど
も然ハ非ず産靈の御靈ハ資て生
笑ハ御事と知れたるあり遺憾と
謂ゆる易の乾道坤道。事あり天地ハ乾坤の字を用
ひたる例ハ古事記序ハ然乾坤初分參神爲造化之首
陰陽斯開二靈爲群品之祖と有り此ハ全くの漢文ハ
此ハ今云ふ限ハ非ずと雖も此始ハ古天地未剖陽不

分と有て天地ハ陰陽とを並べたる所ハ當たり神功
皇后御紀あり新羅王ハ畏りて所ハ從今以後長與
乾坤伏爲飼部云々と有て古事記ハ自今以後隨天
皇命而爲御馬甘云と共與天地無退任奉と有り又万
葉十^{三十一}ハ乾坤之初時從十三^{十九}ハ乾坤乃神字禱
而ふど此等ハ天地ハ乾坤の字を用いたる例あり但
右の乾地ハ乾坤の坤を地ハ誤れりあり皆此乾坤之
道と云ハ易繫辭ハ天地絪縕萬物化醇男女構精萬
物化生乾道成男坤道成女乾知大始坤成作成物と有
る此天地ハ乾天神地と云ハ男女ハ其天陽地陰と云

あり其を取て此の乾坤之道相参而化とい書されたる
 あり者あり若此く上の三神の御時唯純陽の氣
 の行りれを故の純男アノコノキと化生ナリテし此の天地綱
 綱シの行りたるが故の男女と化生ナリテしと云事ハ百ハ可レ也
 其其三神の成出させ給へりも此の四代八神の成出
 とせ御在し坐けりも彼高皇産靈尊神皇産靈尊の産
 靈の資が如何なり生出させ給ふ可し然れハ上
 の獨神成坐と云も實の獨神と物と成り所なる故
 の一柱つゝ出給ひ此の男女耦生之神と有る雙神
 の依りて事成さし給ふが故に如此く男女相並べ

て出給へりも有り如何なり易あり
 如き人智を以て巧作れり道理を以て推當の事を得
 然れハ此の男女二柱の皇産靈神相結ハりて此
 あり故の乾坤之道相参而化し事如何の思混て
 や百の口訣の渥土煮汰土煮大戸之道大若邊首以
 天理顯此事共具事理神也面足惶根伊弉諾伊弉册首
 共男神具陰陽也神具陰陽也と云事あり
 ○是謂神世七代ハ記傳三四十の神代とい
 古今集序に云る人代と別て云稱あり其ハ甚上代の
 人ハ凡て神あり故に然るも何時まじり又ハ神
 とい何時より以來の人ハ神ありと云ふ判然ハる
 差ハ無故に万葉の歌あり唯古を廣く神代と

云々然れども事を分て云時ハ鷄鶏澤草膏不合尊尊まで
と神代代と一白檮原朝より以來と人代とす信ふ此朝
の御時時より世中の形勢形勢新なりけり然れども云つ可き
者あり書紀ハ此此より二巻と神代上下と標され姓
氏録録も此此までの御子孫と神別と一神武天皇より
以來の皇別と爲る然れども此ハ伊邪那岐神伊邪
那美神神を神世と云ふハ後五代の神代ハ云り
祭の遺れあり其ハ人代と成て後ハ鷄澤草膏不合
尊の御時時を神代と申す如くハ五代の神代の時
ハ又此七代を神世と申せりけりありと有るを實ふ

然るに有ける諸神代と云ふ六の次第も有る事あり
と云押並て云時ハ皇御孫尊の御天降より以前ハ神
世と其より以後ハ皇代皇代と云者ありけり其ハ
天孫降臨章第一書ハ大己貴神報曰云々吾所治頭
露事者皇孫當治吾將退治幽事と有り幽事を其上ハ
ハ神事と有り其顯露事を出雲神賀詞ハ現事頭事
と出たり其舊訓又名義ハ現事を阿良比登碁登頭事を阿
那良米碁登と訓らる現入事鮮所見事と云事ハ是
あり神と入と相交代カれり始ありけり
王先朝鐘愛幽顯属心と有り幽顯と迎御紀母比登母と
有て神亦人亦の義ありハ唯神と入との事を云ふて

右の時を指し、ハ誦る可り也。然るハ万葉六四十
巡事頭露事と云ふ事、右ノ同ト。長歌ハ八十揮之神之御世自云々、と詠て其反歌ハ
神世自云々、と云ハ十五三、ハ八十弋神自御世云々、
と詠ハ十八二十、ハ於保奈年知須久奈比古奈野神
代欲里伊比都藝家良之と有ふ、ハ何れハ幽頭ノ未
分セザリ一程ハ神代トハ云々、ハ皆其天神御子ノ
天降リ御在リ坐テ初國所知者、御世頃、ハハ皇代
少シ詔ゆる人代是、ハ事古引ルカクシゴト、カミゴト、カミゴト、カミゴト
現事ハ頭事ト云々、並べ見テ曉リ可ク者、ハ其證ハ文
武天皇御紀詔ハ高天原、ハ事始而遠天皇祖御世中今

至麻豆 天皇御子之阿礼坐、年 弥繼、ハ 大八島國將知
次、止 云々、元明天皇御紀詔ハ遠皇祖御世、年 始而天皇
御世、豆 天日嗣高御座、ハ 坐而云々、又詔ハ高天原
與、初 天降坐、志 天皇御世、年 始而中今、ハ 至麻豆 天皇御世
御世、豆 天日嗣高御座、ハ 坐而云々、聖武天皇御紀詔ハ
高天原、由 天降坐、之 天皇御世始而云々、孝謙天皇御紀
詔ハ高天原、由 天降坐、之 天皇御世、年 始、天 中今、ハ 至麻豆
天皇御世、二 天日嗣高御座、ハ 坐、云々、又詔ハ高
天原神積坐皇親神魯伎神魯美命、乃 命、乃 將知
食國天下、止 言依奉、乃 隨遠皇祖御世始而天皇御世、二

二聞者來云、又詔小高天原神積坐皇親神魯奔神魯
美命吾孫知食國天下止事依奉乃任、遠天皇御世始
皇天皇御世二聞者來云、ふど所見たる此等ハ例
小依て宣々事少、當時然、御心御在、坐て今宣給
ふ事、此也甚、上代、語繼、言繼、來、任、小
此を宣ふれ、神代、對、て天皇御世と云語の遠々
より有來、事、を、知、り、可、り、け、る、者、あり、け、り、万
葉十八二十、小葦原能美豆保國、安麻久太利之良志
賣之家流須賣、呂伎能神乃美許等能御代、可佐、天乃
日嗣等之良志、久流伎美能御代、二之伎麻世流二十

五十、小比左可多能安麻能、乃比良伎多可知保乃多氣
尔阿毛理之須賣、呂伎能可未能御代、欲利、あり、有、て、神
の御代と云事、ハ本、より、事、あり、と雖、此ハ神ハ其
言、小、以、て、申、せ、り、り、て、實、小、ハ、須、賣、呂、伎、能、御、代、と、申、す
義、あり、斯、れ、ハ、其、御、天、降、より、以、後、ハ、同、ト、ク、神、代、あり、
者、より、皇、代、と、云、べ、り、者、あり、け、り、有、け、り、然、れ、ハ、神、代、小
と、云、より、ハ、皇、代、と、申、奉、り、將、欲、し、御、事、あり、け、り、有、け、
後、小、出、來、たる、書、あり、け、り、皇、代、記、又、ハ、皇、年、代、記、あり、け、り、
稱、ハ、實、小、當、れ、り、言、あり、け、り、有、け、り、神、代、人、代、と、對、云、
事、ハ、古、今、集、真、名、序、始、あり、け、り、可、一、神、世、七、代、時、質、人、淳、情、
欲、無、分、德、歌、未、作、云、り、爰、及、人、代、此、風、大、起、り、有、り、是、不
り、其、ハ、貫、之、主、ハ、假、字、序、ハ、道、速、振、り、神、代、ハ、歌、の
文字、也、定、ま、り、ず、淳、朴、め、り、言、の、意、分、難、り、け、り、
人、代、と、成、り、素、琴、鳴、尊、より、三、十、字、余、一、字、ハ、詠、け、り、

と譯し云れたりけりども其の唯神代と云ふ對へ
人代とハ云れたりも素戔鳴尊と入代ハ當たり
如何なる事か記傳ハ云々如く神世
七代と云ハ後五代。神代ハ一言之遺ハ
云々此を人代と云ハるなり。猪神代と云ハ其段落
六等あり可しと云ハ一ハ別天神の御代を申す
あり其ハ別天神と申す中ハ此第四一書ハ高天原
所生神名天御中主尊次高皇產靈尊次神皇產靈尊と
所見たり其を括りて古事記ハ此三柱神者獨神成
坐而隱身也と有り此ハ彼一物を天中ハ產成一給ハ
リ一間の御事ハ百ければ實ハ無始と云て測
奉り知る可しと云ハ遠き神世ハ百ければ次あり

七御代の神代よりハ又神世とも謂つ可し時あり者
ありニハ此ハ謂ゆる神世七代と云ハ是あり但七
代と云中ハ彼別天神の中あり可美葦原彥尊天
常立尊ニ柱と此の國常尊豐斟淳尊二神と天地の初
判の神也同トハ彼一物より成出させ御在り坐り
ありハ其前後ハ百べりなり次ハ五代十神の末あり
伊弉諾尊伊弉冉尊ハ一も國を生じ神と生意とせ御
在り坐て女神ハ下津國と所知也と宣給ひり入御在
り坐て男神ハ登天報命して日之乃宮ハ留宅とせ御
在り坐て此より二神の御功業の終りハ有ければ實

小此時よりを神世七代とい終別めり可事あり
けり三つ天照太神の神世と云事有り万葉十八三
三小安麻泥良須可未能御代欲里夜洲能河波奈加
敵天立云と有日神の高天原を所知食初
世御在坐間より天地共立定まけり事四神
出生章小是時未天地相去未遠故以天柱舉於天上也
と有は是して是より天地相去り事愈遠く成り事
正知べし文あり然れ此は於て世中の形勢の一變
れり所あり故小右の如く天照神の御代に申奉
る御事と所見たり然れ此等世に父死て

子立ち子没れ孫更ると云ふ人世の定りを以てハ
當べり事少く此を取惣て云時ハ此世中ハ
七世の始より御在坐天御中主尊の御世の内ハ
して窮り無御事あるが其中ハ神代も有り人代も
有る事ありと云大いに括り云時ハ唯其一御世ある
者あり其中ハ神世七代と云事と有れハ次の五
代と云事ハ世を經り中ハ有けり事ハ有り有けれ其
高皇產靈尊神皇產靈尊ハ今も産靈の御業を成
し給ひ天可美葦丹彦皇尊天常立尊ハ我等ハ戴く天
を有た給ひ國常立尊豐斟淳尊ハ我等ハ乘れり大

地と大運の運せりめて年月日時寒暑晝夜を整へ給ひ伊弉諾尊伊弉册尊の別處と建てて御在り坐つても天より牽り地より牽り人類萬物を世中の生活の給ひ天照太神月夜見尊の眼前に仰見奉る日神月神の御在り坐るに我々知ずる唯古より自然ゆゑ如此有る物と思ふ事ハ悉く皇神等の御所爲ふる有けり入代と云ハ唯我々が上の云事ゆゑ世の際限ハ並て神世と云者ゆゑ我々天皇の御世ふる有けり然れバ別天神小在れ神也坐て天地と共極無事神等小御在り坐せハ其成出させ御在り坐け其御時を指て御代と申さゆ

外如何ゆゑも另け奉る可くざる事ありと知や然れバ周礼註ハ父死子立曰世と云ハ説文ハ代更也ふど百字義を思ハバ大あり僻事を引出つ可事ありけり循上あり神世七代を紹運録ハ天神七代と云ハ地神五代と云て天照太神より嘗不合尊よりと云ハ神五代と云事ハ甚當と云ハ事あり按ふ小其ハ舊事紀ハ此七代ハ神等と俱生天神又ハ耦生天神と標して己上七代天神伊弉諾伊弉册二尊並ハ代天神並天降之神也と百と取て設け後人の杜撰あり又天照大神忌徳耳尊と地神五代と云事ハ本より當りたるが上小其初て天降坐り瓊杵尊ハより以後と云天神御子と稱奉る非ずや甚漫りふりける事四ハ其御時ハ素戔嗚尊者可以治天下也共小あり

と有けり如く此天下ハ其大神の所知食す御世なり此大神の御子の大國主神御在り坐りければ國作の神業と事依り給ひて其より根國底國ハ入らせ

古語拾遺小昔左
神代大地主神
之所自有其代
るなり

世御在坐一其より月國小移るいせ御在坐て夜
之食國をふむ所知者一初て給りけり万葉九
小久方乃天照月者神代小加出反等六年者經ふ年と
詠りハ其懷舊の由小ハ非れども神代小出反と云ハ
其初初り本の始と云るなり此より大己貴命少彥名
命ハ一も國土を經營ふ給へり其程も久しく有け
好ハ古小引り万葉十八二十小於保奈年知須久奈比
古那野神代欲里伊比都藝家良之と傳は是あり若
其少彥名命ハ常世國小渡り御在坐りハ大國主
命のより此國をハ主領て給ひけり故小六四十八

千辨之神之御世自十三五丁小八千戈神自御世と有ハ
其御代小係り云る古語あり又其外も幽顯未定ハ
より一當昔と神代と云るハ一十三山御歌小神代從
如此尔有良之古昔母然尔有許曾虛輝毛孺子相格良
思古と有ハ播磨風土記小出雲國阿菩大神聞大和國
畝火香山耳梨三山相聞此欲諫止上來之と有ハ阿菩
大神ハ何れの神とも未得考定められども國神の部
ある事云も更あり此小神代小對りて現身と詠せ給
へり幽顯相分れて後の事小合せたり者あり五三十丁
小神代欲理云傳介良久云と云て下小今世能人母

許等期等目前亦見在知在と有る古も同ト格あり
以見りハ一ハ現身もと詠せ給ひ一ハ今世の人も
此証へりハ後世もあらず人代も云々と云々
れども然るハ神代もあらず五ハ幽頭相分れ
人代と云事ハ末世ハ非りハ即皇代と云謂ゆ
天神御子の天降りて給へりハ即皇代と云謂ゆ
又代の始ありと雖も猶御代三の間と神代とハ申けり
事あり万葉十三ハ葦原矣木穗之國丹乎向為跡天
降座兼五百萬千萬神之神代從云續來在と有る更
右も引り十八ハ安麻久太利之良志賣之家
流須賣呂伎能神乃美許等能御代可佐祢二十五ハ
多可知保乃多氣亦阿毛理之須賣呂伎能可美未能御

代欲利多る有る是あり此三御代を経て神倭天皇初
中洲小入りて給ひ畝傍檣原宮小初國所知食一頃
一々世の狀も何も甚く改易なり一々其高千穂宮
の御時と神代と云習ハ一々者と見ゆ故御紀ハ
も神代上下と云其御代もて終りて古事記ハ
此と上卷小收りて其序小天御中主神以下日子
波限建鷄薗草言不合尊以前為上卷と云りれ姓氏録
序小天神地祇之曾謂之神別天皇ニ子之流謂之皇別
と有る其定め右の例共小同ト又古語拾遺小凡奉
造神殿者皆須依神代之職と云又肇自神代中臣齋部

供奉神事と有ふと、其御天降以來の事と指て神代
 と云ふは皆同ト例あり又万葉四十二の神代從生
 繼來者人多國尔波滿而詠せ給へりも其天降る也
 御在り坐けり現人神の御代を指給へり見ゆ右の
 五卷の神代欲理云傳介良久云今世能人母許等期
 等目前尔見在知在人佐播尔滿互播阿礼等母と詠り
 右の大御歌は六の神武天皇以下、古くより人
 皇と申奉りて實小人代の初より有れりも御世の
 の天皇は直小天神御子として現人神小御在り坐か
 故小後より神代と申奉り事常ありと見え万葉
 六十四の隅知之吾大王高敷爲日本國者皇祖乃神

悲寧樂故京御作歌

之御代自敷坐流國尔之有者阿礼(出)將座御子之嗣繼
 天下所知座跡八百萬十年兵兼而定家平城京師者
 云と詠りハ一十六過近江荒都時歌小玉乎次畝火
 之山乃檀原乃日知之御世從或云阿礼座師神乃盡摺
 木乃弥繼嗣尔天下所知食之乎或云天尔滿倭乎置而
 青丹吉平山字越或云虛見倭乎置何方御念食可或云
計未天離夷者雖百石走淡海國也樂浪乃大津宮尔天
 下所知食兼略と有ると同ト事なり此は近江小都を遷
 りたると歎け被り山皆國久近新京を移されたり
 を悲しめり共小神武天皇より以降大和國小大

宮所敷給以來此方故實小違ハセ給ヘラと悼シク不
此ハ右小皇祖乃神之御代自と有ハ神武天皇を指奉
此方事相照一應セテ曉ル可一十八二十攝歌ハ可氣
麻久母安夜尔加之古思皇神祖能可見能大御世尔由
道間守常世尔和多利夜保許毛知麻爲互許之登吉時
支能香久乃菓子午可之古久母能許之多麻故礼と有
ル可見能大御世爾と有ハ垂仁天皇を申奉ル事之也
更あり又三三十一八丁小明神之貴山乃儕立乃見果石山跡
神代從人之言嗣國見爲六三十一二丁由自神代芳野宮尔踐
通高所知者山河平吉三と有ルハ神代ハ唯上代と

指テ神代とハ云ウ其當代を指テ神代と稱奉ルハ
一十九疊小青垣山山神乃奉御調等春部者花挿頭持杖
立者黄葉頭刺理遊副川之神母大御食尔仕奉等上瀬
尔小網刺渡山川母依氏奉流神乃御代鴨と詠ハ是ハ
其反歌ハ山川毛因而奉流神長柄云々とも有ハ如
ク山川ニ歸テ仕奉ルと云フハ神乃御代と云成ラタ
ル如クル也然クハ非ズ天皇ハハ天神御
子小御在ハ坐セハ現御神とモ現人神とモ遠津神と
モ申奉ル御事ハ正身ハ人ハ御在ハ坐セル也
正身ハ大御神小渡ル給ヘラ故ハ神乃御代とハ

如此く称奉りて實山其三十二小皇者神二四
座者天雲之雷之上尔廬鳥流鴨十九丁小大王者神
尔之座者水鳥乃須太久水沼麻牟皇都常成都之誅奉
れり程の大御授威る御在り坐て甚可畏御事小
し有けり當今と直小神代と称奉りし事正小
然有れ可御事あり有けり然れハ神代と云ふ也
元七許の次第有る事あり石小引り凡巻四丁小久
方乃天照月首神代尔加出
及等六年者經尔作又十二丁小山代久也乃驚坂自神
代春者張作秋者散來ありと云ふハ年歴の循環事ハ係
て云ふるハ過去一世の事と神代と云ふハ非ず
其神代あり中よて世の推移事と云ふハ如くも聞
ゆのり右の事ハ如く昔不合尊以上を神代と云ふハ神
武天皇以下を人代と云ふ事ハ有れども神代と云ふハ

小過去りて全く人代と相易かりと思ひむハ俗意ハ
可然分れたる上よてハ幽あり方ハ今も神代と
云者あり顯あり方ハ本より現世あり有れハ人代と
事今云ふ限ハ非ず然れハ神代の中よ在り人代と
云者あり人代と云ふ此方ハ神代の中よ在り人代と
目、有るハ有けり其實ハ神代の中よ在り人代と
云つ可狀 ○七代ハ和記ハ國常立國狹楯豐斟淳並
是男神也謂之三代次男女禰生之神有八神矣是則通
計男女二柱合爲一代是謂四代都合爲七代と有る是
あり古事記の趣然れハ上件自國之常立神以下伊
邪那美神以前并称神世七代上二柱獨神各云一代次
也と有る神世七代と云称するハ異らざりけり上三
六丁又百小註るハ如く此ハ上と三神と一と下と四
二丁

代八神と傳はれざるを被記ふは上を二柱より下を五
代十神と傳へたる也此神世七代の内かして然る相
違の出来れども實は此の國狹槌尊ハ一の國
常立尊の亦御名ハ御在ー坐セハ其下ハ亦曰と擧ぐ
れて世代ハ中ハ除き奉り上を國常立尊以豐斟淳
尊と列ね奉り下の四代八神ハ角楯尊活楯尊ハ二柱
を加之五代十神と成し奉り惣て神世七代十二神
ハ御在ー坐ズてハ正理ハ叶ハざるを御紀ハ正一
遺ハれハリ一者ありけり其より以前ハ出来れども古
事記ハ己ハ正一ハ然有ると何より延て誤れんと

多ふりと云ハ全く國狹槌尊の置て所違ハるハ出
たる事少て其所を凡三神兵と爲りしり押れて下を
四代八神ハ約せられたれども猶定ハ難と給へ
るハ灼然ハ第九一書ハ此四代八神ハ異説多ると以
り曉り可き事ありけり如此くある時ハ上より云ハ
先天御中主尊少て教ハ一此ハ起り高皇產靈尊神皇
產靈尊少て二と成ハ是陰陽少て氣の始^神あり可美葦
丹彦尊天常立尊ハ天の神少て教ハ五立て宇宙の
象教此ハ因て極する國常立尊豐斟淳尊ハ地の神ハ
ハ七ハ教上より起り下より成ハ是大地の定まる所

り次ハ澄土煮尊汝土煮尊以下五代十神ハ唯伊弉諾
 尊伊弉冉尊一世のこあり上より八敷あり其生坐り
 小大八洲國入八百萬神百の所以あり次ハ天照太神
 あり其敷九あり(天地)の主宰と御在り坐り事極まり
 其御子天忍穗耳尊あり天壤と無窮也天津日繼定り
 也御在り坐り此十敷あり悉く定り事實小奇一の妙
 小渡り七絡ふ御事あり若て止あり別天神と神世七
 代とを合せても十二あり神世七代も上の獨神二柱
 下の雙神十柱あり合せて十二あり十二月十二方位
 の立つ所此小在り又別天神を約れば三世神世七代

也合せて二世あり五の敷と成り又澄土煮尊汝土煮
 尊以下あり五代あり十神あり天地の象敷を盡して
 寔小奇異一の妙あり事共あり此小敷理と馮小ハ
 非れども如此くハ古事記の方あり甚勝なりなりけり
 敷ハ天地の信を知り可き者あり鬼神と雖も道り
 事合ハじり者あり上あり如く天御中主尊ハ
 師説ハ詔あり大一少あり易ハ太極の太一是あり光
 子小道生一一生二生三三正万物と有り是高皇產
 靈尊神皇產靈尊二柱あり陰陽の神なり次ハ一物と
 主坐り天地の神此より成坐り三三三三三三三三三三
 是あり別天神と合せて五柱神あり子華子ハ天地
 之大敷莫過乎五莫中乎五五居中宮以制万物品冲氣
 之主也中之所以起也中之所以止也龜筮之所以靈也
 神響之所以豐融也通乎此則條達而無礙者矣云云
 又五居中宮敷之所由生也一縱一橫敷之所由成也
 百あり神一の遠小合り事共あり七敷の事ハ鎮火祭

○日本書紀傳五

○百三十五

詞ハ夜七夜晝七日云々ト云事有リ易カモ天行七日見天心云々ト云一曰ノ義多ク俗ハ醫療カド事ハ七日と限りて(他)回々云ハ此ト起リたり可ク九ハ素問三部九候論ハ天地之至數始於一終於九焉ト云此ハ三五曆記ハ數起於一立於三成於五盛於七處於九ト云是ハ物ノ極ト至リ十ハ復カ事アリ天照大神ハ其九ハ處テ天御中主尊ハ一ハ應ヒテ高天原ト所知者ナリ此ハ合リ又此ハ五代十神ノ五ハ右ト云ハ如ク十ハ素問陰陽離合論ハ陰陽者數之可ト推レ之可ト百數之可ト十推之可ト方之合カハ其要一也ト有リ合リ此等ハ唯ハ理ノ合カハ其數ハ止ベリト云ハ所以有テ必正ト然往リテ得ハ有リ事共アリ但此等ハ推當ノ如ク多ク可クハ教ト云物ハ天ノ大一ハ起リテ實ハ神隨ハ分レテ百千萬ト成リ其末又本ノ大一ハ復カリ外無キ物少クハ有リケルハ天地ノ神理此ハ因テ生レ又天地ノ神理此物ハ含リテ實ハ高トク多ク者少ト有リハ異國ノ事アリトモ其理ト合セテ心得カ事ハ有リ將欲ト云ハ我ハ思元ト云

一書曰男女耦生之神先有

泥土煮尊沙土煮尊次有角

檄尊活檄尊次有百足尊惶

根尊次有伊弉諾尊伊弉册

尊

此ハ正書ありける 四代八神の一傳あり 此中ハ大戸
之道尊大戸之邊尊。一御代を脱々たるるあり甚可
借しとを 此ハ角楯尊活楯尊二柱の御名の御在り坐
りしり實ハ神の恩賜ハ有けれ 此被相合すれば五
代十神あり 古事記ありも相異あり見ゆるあり然
るがハ斯文の亡びざるもて 天下の喜び万世の幸ハ
何れり 此ハ勝り可き上あり多し 如く紀記共ハ合
と神せ七代と云中ハ此ハ上と三神矣と爲りたる
らく止事と得ず然しも成れりとも斯ハ傳迄とも
廢り給り給りあり探者の公正あり所と深く感け

今古ハ正書ハ大書と
有り書ハ小書と

奉りし事ありける 荷田御風説ハ此文錯乱あり上
と云るハ正書ハ大字より次ハ正書ハ直ハ續ハ如く
見えて其國界分れざる故ハ態と此ハ校せんたるハ
取りしり説ありける ○男女耦生之神ハ賣賣多具
比成坐流神と訓べり 此ハ上ハ乾道獨化所以成此純
男と有ハ其第一書ハ天地初判始有俱生之神と有
を漢文狀ハ書り者ありて 天地の初ハ成れり一物と
俱ハ坐坐て其一物。神ハ御在り坐り義ありハ此ハ
ハ耦生坐り神ハ御在り坐り意あり 古事記ハ此二
柱神亦獨神成坐而隱身也と有と然しも異ありざる
者あり若て此ハ男女耦生之神と見えたりも然り右

小乾坤之道相參而化所以成此男女之有也亦此文之
漢文小作レたレり一者多事上百二小註カ如一
如此レ古傳ハ無キ事多撰者の地ハ書レた
多クハ永スるの漢文ハ如何カ也ハ爲ベクハ
者多心多在ルを然レれト也又事ハ廣シカ
故ハ斯ク美タ事共許多有リカレル
記スる此五代十神の所ハ小某神次妹某神と見元た
は是男女耦生坐ルと云フ私記ハ耦生謂男女共相
耦生也非謂夫婦耦合而生息也と云フ如ク伊弉諾尊
伊弉冉尊と申奉ル頃ハひキ至ルまで未ダ造合の御事
御在一坐ズと雖シ妹妹二柱ハ相嫁繼坐ベク神の相
雙生坐ルハハ古事記ハ某神次妹某神と有

ハ此ハ男女耦坐之神ト傳ハレル者多リ
ハ又口訣ハ耦生如同耦二相也ト纂疏ハ男
女並生曰耦陽神對陰神而生故曰耦也ト註レル
ハ古事記神世七代の細書ハ上二柱獨神各一代次
雙十神各合二神一代ト有リ雙ハ言ハ同ト然レハ
耦生ハ雙生ト云フハ如クハ八洲起元章ハ雙生隱
岐洲與佐度洲也人或百雙生者象此也ト百ハ兩兒ハ
生セ給フ事多男女相並ル事ハ非レ也ト其耦生
ハ意味似事多故ハ此ハ引出スル

舊事紀少御紀取て一代俱生天神二代俱生
 天神と書して此ハ古事記謂ゆる獨神多ク出た
 申セルあり又別ハ獨化天神之も有ハ皆此ハ出た
 字ハ依て推當ハ者あり其前ハ獨化之外俱生
 天神二代耦生五代所謂神世之代是也云ハ實ハ
 獨化ハ別天神あり俱生ハ國常立尊豐斟濟尊二柱と
 申し耦生五代と云ハ謂ゆる五代十神ありと種
 小當たる故ハ此の傳ハ違ハる事共ハ成出たり
 者ハ不耦と雙と同一ト意ありと云ハ孝徳天皇五年
 御紀歌ハ耶麻賦播爾鳥志賦拖都威底陀虞昆預俱陀
編虞陸屢伊慕子多例柯威爾雞武と有其同ト意を万
 葉三五十小愛八師妹之有世邊水鴨成二人雙居五丁五
 小尔保鳥能布多利那良昆爲加多良比斯許ニ呂曾牟
 企立十八二十小比毛能緒能移都哉利阿比氏尔保騰

騰里能布多理雙坐あ詠ハ何れ也相耦ハ居る事
 小雙字と書て那良夫と訓たり又此ハ副字を作り
 四十八小雨乍見君尔副而此日今晚又二十草枕行
 君乎愛見副而曾來四入五十吾妹兒與携行而副而將
 座七十小鷹尔副而去益物乎二十小雨濟之雲尔
 副而又三十朝東風尔副而有又比字を訓り四
二十小幼婦之戀情尔比有困目ハ方と有り是あり又
九十五十小可母須良母都麻等多其比五十七三十小
 妹毛吾毛許ニ呂波於夜自多其具敵礼登あり有ハ如
 男女の間ハ抱ハ事ハ限らず物ハ相添ハ事を多具布

といふあり故神功皇后元年御紀歌ハ菟兔區區喻喻弥弥耳耳末利
 椰天塢副多具倍ト有ト多具倍ハ天孫降臨章第四一書小
 手提天拖弓天羽羽矢及副持八目鳴鑼ト云副持ト
 同ト此等と以て耦カクと雙コトと副コトと言ハ本ト異カれ
 も大小等ト意有ト知バト古ノ四五十一小吾妹兒與
 携テ行而副而將居ト有テ携テ副ト相照ト云ト見れ
 ハ多具布ハ手組クと云意ト出テ言ハ有ル可クり
 けり耦カク字ハ右ハ口訣纂疏ヲ引レ如ク副カ字ハ右
 義故小那賣トも多具布トも佐副トも曾布トも訓ウ
 此と以て此耦カク字ノ義と相照ト辨ス可ク有ルけり

〇漢武帝ハ大行ハ君
 何詩ハ人ハ既ニ終シ
 可ク入ル也ハ後ハ行ハ
 九ノ三ノ同ト一ト也ハ
 〇漢ハ武帝ハ大行ハ君
 何詩ハ人ハ既ニ終シ
 可ク入ル也ハ後ハ行ハ
 九ノ三ノ同ト一ト也ハ
 〇漢ハ武帝ハ大行ハ君
 何詩ハ人ハ既ニ終シ
 可ク入ル也ハ後ハ行ハ
 九ノ三ノ同ト一ト也ハ
 〇漢ハ武帝ハ大行ハ君
 何詩ハ人ハ既ニ終シ
 可ク入ル也ハ後ハ行ハ
 九ノ三ノ同ト一ト也ハ

古今集離別小東の方へ罷りける久小詠て遣レけり
 思へども身と一分あは目小見えぬ心を君小多具倍
 こが遣ルト有ル副ル事と然ル云ルあり今も夫婦と
 成ル事と曾布ト云ル此の耦カクと又同ト意あるを知
 ベレ名義故小耦カク字ヲ登ル母賀良トも多具比トも有ル
 是ルあり又偶カク字ハ通ル可ク同カク小多具比トも登ル母賀良ト
 世知バト偶カクあり又比ト等ト許ル呂倍理トも登ル母賀良ト訓ハと合
 九ノ卷ハ三十六ト下ト如ク己ノ男ト許ル呂倍理ト入ル如ク己ノ万葉
 詩ハ關ニ鴨嶋在ル河ノ洲ハ窈窕ト淑ト女ノ君子ト好ル述ト有ル好
 送ル與テ伎多具比那理と訓ル此ノ耦カク字ハ多具比ト意ハ
 訓ハ相當り又類ト也ト属ト也ト共ト也ト多具比ト意ハ
 〇角檄尊活檄尊ヲ御名此小出ル世給ルへら甚美好ト

〇日本書紀傳五

百早

〇漢武帝ハ大行ハ君何詩ハ人ハ既ニ終シ可ク入ル也ハ後ハ行ハ九ノ三ノ同ト一ト也ハ

也雖も大戸之道尊大戸之邊尊の御名御在し坐さる
 る心甚可惜し事ありけり舊事紀ふ國常立尊豐
 國主尊の次小三代耦生天神の角檝尊亦云角魂尊
 活檝尊と見元其次小四代耦生天神の涇土根尊
亦云涇土根尊 亦云涇土根尊と有る事ありども其次實遠
 不可し今更小申すも事舊ふたりと雖も此ハ古事記
 小次成神名字比地近神次妹須比智近神次角我神次
 妹活我神次内意富斗能地神次妹大斗乃辨神と有る
 こと實小正し傳説ふ有る事ありけれ又其下
角龍魂尊と有る甚怪し亦名も有けり若くは姓
氏録ふ角龍魂命を誤りけりとも思へども然り小

こも此神の亦名ふ如何ハ當るむ其を天常立尊の
 亦名と定められたれども予ハ思ふよハ可美葦丹彦
 尊尊小御在し坐は 角檝尊活檝尊上 四十小註
 此ハ更小由無 角檝尊活檝尊 上四十 小註
 かく坐植植 氣形元始 成させ御在し坐けり由
 小縁て負せ給へり大御名あり御在し坐けり然
 る天成先て地未定るがゆりども己小涇土
 汝土と成小全く至り事ハ天日の 蒸照す小依て其
 光輝大地小徹れり其網綱 資て地上小 然り
 物共ハ出来自然 の勢ふる有けり此ハ彼三
 柱神天浮橋小御立し御在し坐て初て磯馭盧島と採
 得て給へり御時小嘗れり御名ふる有けり其

ハ先其角撒尊を生植の始小説成一奉り云ハ本草
の芽立と角と云ふ可一正書ハ溟滓而含丹と有る
丹ハ次ハ天地之中生一物状如葦牙と有る此物の事
みて第二一書ハ十時國中生物状如葦牙之抽出也因
此有化生之神號可美葦牙彦舅尊と有る此運び合
る文ありハ又其葦牙の事ハ就ハ角凝魂命とも稱奉
れる事已ハ傳四四十一ハ註ハ如ハ其角と此ハ角撒
尊と申奉る角と相同トク一ハ記傳三十一ハ物の僅
小生初ハ譬ハ尾頭手足ありハ差別ハ未生ハ形
と都怒と云ふハ云々ハ事ありハ予ハ思ふハ

見元本草和名流
首和名古毛都切

角ハ突抜ク意有ハ物の尖鋒ハ抽出と云ハ通ハ
ハハ此を以て生植の始ハ因ハ御名ありハ云
あり葦牙の初ハ生出ハを角具年と云ハ更あり和
名ハ小茨蘆之初生也和名阿之豆乃と有を以知ハ
借此角と古ハ都怒と訓ハ事ありハ又都能と云ハ
古ハ常ありハ古語拾遺ハ今ハ天日鷲神造木綿津
咋見神穀木種殖之以作白和幣と有ハ天日鷲神木綿
ハ白和幣と造作ハ其津咋見神と一ハ穀木と
種殖ハ給ハ由あり其下ハ一夜蕃茂也と見元ハ
ハ就ハ其御功用と考ハ傳十九三百ハ註ハ

近江國郷名小高
鳥部角野都り見
又

如く津咋見古本小都能具美此と訓るハ此の角撒の御
名小同トく角組の義少て一夜の間小生一給ハク
功小因れり神名少あり百けれバ此を證リ此小
角撒尊と申奉れる御名も正トく生植の生出初たる
由小因れり事をあむ明くる奉り可き者ありけり然
ハ其津咋見神と後の訓小都具比美と訓るを心シ也
善一トハ云々リ然れども和名抄土佐國
郷名小大角於保都と有る角を都との訓たれバ
然訓ニたりとて角組見と云義あり相離れり事
あり撒ハ古事記小我と作り共小借字トて其具年
角具年の具年是あり組と云ハ物と物と合て形質を
成り事少あり然れハ久比と久美と一言ある少ト昨

合の義小起れり言ある可ト八洲起元章の遺合を古
事記小ハ美斗能麻具波比と作り其を記傳四十小
具波比ハ久比阿比の約りあり凡物ニ一合ふ
と久比阿布と云ふ万葉十六十六小角之布久禮尔四
具比相尔計六と有る是あり今俗小物と作合すと志
久波須と云ひ物の具波比と云も久比阿比あり以上
と有るヲ又思ふ此正書小其葦丹の如くあり物
を精也之合と云々精也咋合為あり又發語の名細又
ハ花細と云々名ニ咋合と云ひ花細と香との咋合
を云ふ物と物と合て物あり處。有と稱云ふあり

然れ此の久比ハ乍合の約れり又久美と轉
 りて組の義有り又此を分て此の萌芽の意と成れり
 者との通えりし新古今集ハ三島江の霜も未
 乾ぬ葦葉ハ角具年程の春風が吹くと有り如く多く
 ハ葦ふと云べとも然のこハ有るが葦草ハ
 ツスブテ 浅草ハ浅角の義あり可く細蔓ハ角有蕙ハ角無
 網ハ角長ツスブの義ハ當見ハ實ハ角織ハ角組あり可く
 不思議めりれり
猶漢籍礼記疏ハ物初生而有芒角也と有る芒角と都能具年と訓ハ
毛詩ハ敦葦と都怒具年何斯と訓ハ註ハ敦聚貝句
萌之時也と有て敦ハ聚貝と云ると以てハ組ハ乍合
ハ義と備へたりハ合ハ
 此等と以てハ合ハ可く 活攝導と申奉ハ活ハ伴久と

訓て生活く義あり故人ハ更ふれ之ガ鳥獸虫魚ハ至
 り迄ハ凡此世中ハ天地の氣を呼吸ツクキニキして生存ハる物
 の本と御在ハ坐す謂ある事古の角攝導ハ草木等の
 始の神ハ渡り給へり例して思ふ可くあり有け
 る活の例ハ古事記ハ十神段ハ大穴年邊神の御事を
 即於其石所燒著而死尔と請神産巢日之命時乃遣
 蠶貝比賣與蛤貝比賣令作活又玉垣宮段ハ故料曙立
 王令宇氣比白と往是鷺巢池之樹鷺宇宇氣比泊落
 如此詔之時宇氣比其鷺墮地死又詔之宇氣比活ハ者
 更活ふと有ハ活と死と對ハり例あり又大年神段ハ

神活須昆神と申す見元紀記共小五男神の中小活津彦根命と申す御在し一葉一崇神天皇八年御紀の人名小高橋邑人活目と云ふ所見たりハ活ハ生活の義を以て称せり者あり地名ハ神功皇后御紀ハ活田長峽國万葉三五ハ十小活道山あり有り元世中ハ生出る物ハ謂ゆる胎生有り卵生有り濕生有り化生有りと雖も其ハ生れ様の異ありと云ふ有りけり此ニ柱御祖神小成初たりけりハ活と一生々萬物ハ一也此角攝尊活攝尊と申奉る御靈小依り事あり故小生植の方と以て男神小称奉り氣形の方と以て女神小称奉

少分りあり者あり有りけり其ハ男女の差別の見ツツて生植ハ一也木小在れ草小在れ素より男種女種の有り事人の知れりハ如し然るハ其ハ一也時ハ其草木共小土中ハ一也初て生出る状ハ謂ゆる角ハ布久礼と云ふべき也一也其氣形ハ一也男女精と攝せて母胎物の状の如く又其氣形ハ一也男ハ精と攝せて母胎能ハズ所以ハ其生立の間ハ父ハ一也母ハ一也親ハ一也者ありハ古書ハ御祖と云ハ何時も母の称ありけり是あり然る時ハ生植ハ氣形ハ一也男女の義を具ハズと云事有りハ一也物有れハ其義と會ハ思ふ可し故其活攝ハ活咋合と云活組あり事右小註カハ如し天日の光輝大地ハ照徹り時ハ其天地の氣此ハ咋合ハ物を生ハ出り可し神氣此ハ初めて生る是あり生植此ハ馮て立ち氣形又其ハ資

て^別成出べき惟神の氣勢^{イサヒ}あむ成初たりけり四神
出生章第一書小即軻遇突智娶埴山姫生稚産靈此
神頭上御生靈與柔臍中生五教と所見たり是其徴ふ
少但古事記小和久産巢日神此神之子謂豊宇氣毘賣
神と有り實ハ其豊宇氣毘賣神なりと謂ゆる保食神
の御身より然る物共ハ出来成れりふむ有りける故
其第十一書小天照太神在於天上曰聞葦原中國有
保食神^直尔月夜見尊就候之と有り天日の皇太御神の
大御光明新々此大地と照る御在り坐り上りて
此大地の然る神の御在り坐り此の謂ゆる^{ツマク}生植^{イダヒ}氣形

の物と成りてせし幸給ふ御消息を見行り坐て猶其
上小も善成と令給ふ^ハの御心ふる事傳十四卷小
委しくとむか如し其文小保食神乃迴首^禰國則自口
出飯又饗^禰海則緒廣緒狭亦自口出又饗^禰山則毛鹿毛柔
亦自口出と有り斯る此より以前小己小角攝尊活
攝尊の御時より然る物の出来れりと云と俗眼と以
てハ事相重複りて何れり其難分と心り爲る^めのど
も其保食神の後小其神と定り坐りふ^ハ有りけ
れ己小其生植を生り可と地有り其氣形と搏し可
と處百り上ハ其保食神より以前小如何でハ無

とハ云バうゝむ且此時ハ其生植と氣形との漸ハ小
世小見ハれ初ハ始ハ未形成ハ事ありけり
國土己小成り天照太神素戔鳴尊二柱神の生出ハせ
御在ハ坐て天上と天下とを持分て所知食ハの奉ハ
せ給ハ後小火神ハ生出ハせ給ハ埴山姫命小娶給
ひて推産靈神と生給ハ其御子即保食神小渡ハ給
へば此神ハ坐りてハ全ハ然ハ物共ハ悉ハ小成
整ハ出来たりハ者ハ所思ハ事ありけれハ警ハハ今
の洲と云物何時と無く自然ハ出来れハ木中ハ一
寒ハ暖ハ土質の剛柔と依ハ葦薦ハ類ハ更ハあり木の
涸ハ小隨ハ其地ハ相應ハ草木ハ年ハ小月ハ成
出来ハと五穀ハ如ハ人ハ其地を墾ハ其

種と蒔ハ増ハ養ハ非ハ出来ハ物ハ其自
然ハ出ハ物ハ人ハを經ハ成ハ物ハの差ハ別ハ有ハ似ハ
可ハ畜ハ獸ハ虫ハ魚ハの成ハ狀ハ亦ハ此ハ異ハありハ可ハけ
れハ此ハを以ハ二柱御祖神ハ以ハ國ハ定ハまりハ國の
定ハ多ハ因ハ物ハの生出ハ上ハ四ハ十ハ少ハ註ハ事ハありハ古事
記ハの次第と以ハ校訂ハ時ハ陸土煮尊沙土煮尊の次
小此神の御名を列出ハ給ハ奉ハ續ハ可ハ御事ハありハ此
小角織尊活織尊の御名御在ハ坐て抜ハびハ正
證ハと出ハ八洲起元章ハ一書ハ送ハ夫
婦生蛭兒便載葦船而流之と有ハ此事と古事記ハ也
生水蛭子此子者入葦船而流去と見えたる此ハハ
傳ハ誤ハ有ハ神と心得ハ葦船と云ハありハ也

古事記小故以此吾身成餘處刺塞汝身不成合處而以
爲生瓜國土と詔給ひて生給へりふれハ神ふり有
き苦ハ無き事あり必國と生給へりふりけり諸其國
を流棄せ給ふ小葦船小棄すと云事ハ有べき先
此心と定めて尋以て行く小四神出生章小日神月神
の後ハ此蛭兒を生給ふと云ハ正しく神と生給ふと
云めて誤傳あり事今云限小非ヤと雖ル其ハ様異
りて雖己三歲脚猶不立と有て此傳小葦船と云さ
小意を得て指うる時ハ此脚字ハ古く葦と傳へたる
と神小取成しと云々然混れり者ありて此文

義ハ先蛭兒と云ふ國と生給ひけるハ未溼沙共小乾
りざり間ありハ其地小今年もヤ草木ハ生出り
む今年もヤ草木ハ生出り其地の肥りりと瘦り
ると三年試み給へりハ其木涯小生べり物
を葦と云ふ生立ざりハ漂在ひ流けるハ任せて
放たせ給へりハ義あり葦尚不立と有て以て己小
生給へり破取盧島小己く木草の類の有初なる事を
知べり予ハ此説若當らざりむ小葦船と云事の有
り上ハ心ハ生植ツグの物無しとハ決小云べりハ
者あり此を以て角擡尊と申奉る言の意をも見奉り

知る可くあり有り。又其筭再一書小陰神先唱曰美
哉善女男時以陰神先言故爲不祥更復改巡則陽神先
唱曰善哉善女遂將合文而不知其術時有鵠鷓飛來
推其首尾二神見而學之即得交道と有。此時已小然
る小鳥の成てけ有りけり國土の未推しけり小松
柏の如き大樹ハ生榮ゆ可くも非ず其柢ハ不可も地
も未定しけり程小鵠鷓の如き大禽の有べくも
非ず。國土の大きく成り隨ひて然り生植氣形共小
次第小大く大く小成り者あり有りけり漸く小僅小
葦草生ひ鵠鷓の如き大物の此小巢ひ初たりけり狀

をも想像し奉り知べき事あり有り是あり活機
尊と稱奉り所以ありけり天地の生氣相綱縵たりて
然生植の物ハ生れり小其草木の腐る際よりハ昆虫
を發生し水泥の釀す間よりハ魚介を化音し草木の
森然たり地ハ自然小禽獸の發育あり今も古も
異あり事あり有りけり此等と合せて世小
活物とあり云る其活物ハ即此小謂ゆる活咋合して
天地の氣を呼吸して生活ける小因る稱呼しあり有
けり但此大神をして然る禽魚の祖と云ふハ非ず人
ハ更あり物共小至り迄小生活ける物
ハ皆あり此大神を祖として出來れり所以此小
云事あり傳二十二卷 十丁小事の序有て生魂命

神の御名と説奉れり。合せ思ふ可し。漢籍淮南子原
道訓。天形者生之舎也。氣者生之元也。神者生之制也。
と多て凡世中。生るる物形有る。氣の充たる者
無く。氣有て神の非る者無き事。皆然り。然る者
生植。雖も本より。天地の氣。生立て。天地の氣を呼
吸し。天地の氣盡て。枯る者。死す。殊。小氣形。生て
ハ其氣。小活。其氣。死。事。迅速。多。故。小氣。用
と殊。小重。一。して。活。撒。ハ。云。多。皆。其。生。植。氣。形。万
物。皆。小。生。り。迄。小。皆。風。火。金。木。土。の。五。物。小。資。て。生。出
り。事。已。小。傳。十。卷。二。百。三。十。一。丁。小。注。り。如。し。其。風。火
ハ。男。神。金。木。土。ハ。女。神。の。主。と。せ。給。ふ。所。あり。列。子。黃
帝。篇。ハ。舜。問。予。曰。道。可。得。而。有。乎。曰。汝。身。非。汝。有。也。汝
何。得。百。夫。道。舜。曰。吾。身。不。哉。吾。有。孰。有。之。哉。曰。是。天。地。之
委。形。也。生。非。汝。有。是。天。地。之。委。順。也。孫。子。非。汝。有。是。天。地
之。委。脱。也。故。行。不。知。所。往。不。知。所。持。食。不。知。所。以。天。地。強
陽。氣。也。又。胡。可。得。而。有。哉。と。有。り。注。小。委。聚。也。四。大。假。合
而。爲。此。身。故。曰。委。形。陰。陽。成。和。而。万。物。生。故。正。者。委。和。也
順。理。也。性。命。在。我。即。造。化。之。理。故。曰。委。順。人。也。相。代。如。蟬
蛻。然。故。曰。子。孫。委。蛻。也。不。知。所。持。無。執。着。處。也。強。陽。氣。固
即。生。氣。也。動。爲。陽。人。之。行。處。飲。食。皆。此。氣。之。動。爲。之。皆。非

我有也。と云るも面白き説。天地造化の理實。右
の如くあり可し。又文子九守篇。小重濁爲地。精微爲天。
離而爲四時。分而爲陰陽。精氣爲人。粗氣爲蟲。剛柔相成。
万物乃生。精神。神。本。乎。天。骨。骸。本。乎。地。と云り。其。精。氣。爲
人。粗。氣。爲。蟲。と云り。人。ハ。精。氣。と。天。小。稟。け。蟲。ハ。粗。氣
と。地。小。受。て。生。る。由。少。て。人。ハ。尊。く。禽。獸。虫。魚。ハ。卑。し。
所以。此。小。在。る。事。を。明。せ。る。者。あり。然。れ。バ。等。し。く。活。撒
と。云。中。小。然。る。差。異。有。り。事。あり。但。此。ハ。人。の。解。り。易
う。と。爲。小。然。る。書。○今本の終。小撒撒也の三字有り
共と引て云るあり。後入の捲入あり。今削去つ此の義理。小預。く。事。不
北。ハ。あり。

元本紙數六十張也與書云

右嘉永七年歲在甲寅春正月十一日始之同二十九日終之

以上通計百有五十張也安政四年歲在丁巳冬十月廿五日
夜展覽之而元本在于賢木舍之文庫家本即其寫也焉馬之
相違誤闕之混雜殆言語道斷也俄而校正之修補之而十二
月十二日竟奏其功云總積朝臣重胤于時四十有六載

此本紙數六十張也與書云
右嘉永七年歲在甲寅春正月十一日始之同二十九日終之
以上通計百有五十張也安政四年歲在丁巳冬十月廿五日
夜展覽之而元本在于賢木舍之文庫家本即其寫也焉馬之
相違誤闕之混雜殆言語道斷也俄而校正之修補之而十二
月十二日竟奏其功云總積朝臣重胤于時四十有六載

奉告日本書紀傳再稿之由於宗像

大神等及天社國社之皇神等文

高御座天津日繼止玉敷平大宮止大座坐止万千秋乃長秋

止明御神止神隨天下所知食須掛卷止皇御孫尊止遠

守止皇大御書止說明止皇大御學止業止社奉流止總積朝臣

重胤止我齋在波清在止利持止恐止美止社奉流止吾我大神宗像三

前大神八尋梓摺尾大神止始奉止天神十五百万地祇十五

百万止朝夕止起止波止寐止波止忘事無止久漏事無止久稱辭竟奉流皇

神等止乃大前止乃八度額冥止乃八度拜伏止乃安政止乃四年止云年

乃冬十一月止乃中卯日止乃朝日止乃豐坂登止乃妻子諸共止清止傳

明伎正伎直伎誠乃心并合世力并一尔為氏家內乃者共諸
共尔悅榮慎美敬比恐美恐美白久佐皇神等乃尊伎高伎廣
伎厚伎靈威爾賴氏平宣長平篤胤等我武伎雄偉伎志并繼
岐美多善志迹并逐氏此大業尔仕奉良久波吾我穗積朝臣波
遠神祖余世二尔傳武勇并以皇御孫尊乃大朝廷尔仕
奉利侍良來流家上奈有祀礼海往加水漬久屍山行加草生
須屍平和波不可有流氏人尔奈有流然波雖在毛掛卷毛恐
伎皇御孫尊乃大御稜威天地乃間尔照徹利大座坐我故尔此
大八洲國波御垣內乃如久平久治利海外在流蠻夷乃國王
共波梳鞭乃御調并奉入氏御馬飼止可仕奉伎時止有流哉

送尔東方奈遠伎夷乃長止可云伎者共伊追次氏參渡來氏
征夷府乃許尔大乃如久繫加來利其令言并受賜利仕奉流
事尔有祀礼万國并併世實尔情安伎大御世止奈有祀礼御
階下尔仕奉氏在毛何許乃功毛可立伎非受奈有祀礼思起
志此皇大御學尔仕奉良事海往加水漬久屍山行加草生須
屍止夏止秋止暑伎間波日經日緯影面皆面乃國二并行巡
良比世人并教導伎冬止春止寒伎間波家內尔固久閑居氏
皇大御書并說明良仕奉利世中并顧無久功志美勤氏此大業
止共尔主伎此為業止共尔死氏一日一夜毛平和尔波不在止
思定氏此許多久著述流世五百卷十卷乃書卷波志某甲我身

乃上波男乃弓端乃御調物志又此為家乃事共取整流妻
子等我為女乃手末乃御調物上貢上流心乎以天下
流布古良万世亦傳弘漢轉為流徒乃眼乎技伎佛進為流
輩乃魂乎挂伎弓矢乎捨氏犬戎振為流女志拙伎武士乃
八十伴乃眠乎覺朝廷乎茂如志奉利已我私乃主乎能君
止思居兵内日刺須大宮人開尔已我臣乃如久言下志心教
礼人等乃夢乎驚加志天下乃人心乎混加志一心止為志後
世乃人乃行乎令改志唯一向尔神止君上仰敬此貴辱弥令
仕奉天下波乎一家乃如久萬世毛一日乃如久令在外国
余叛反久心有兵攻寄來尔波此皇大御書乎以天石盾

乃如久立塞兵待防却利言排流器止成志掃此皇國乃人
朝廷乎圍兵軍起須事有止此皇大御學乎以此守奉利仕奉
良牟防久尔天進利高伎大城乃如久有利退流尔廣勇止成
利利叙正成利天扼弓止成利天羽二矢止成兵更尔人無伎
地乎行通我如久奈有倍伎弥弊尔弊美弥勤尔勤結而仕奉
流某甲此皇大御學乃尊伎高伎廣伎厚伎業尔恐志我大
神乃大御靈乎幸依志給開或吾父穗積朝臣重威我遺訓有
兵二部三部乃書乎賜比世麗子我教訓尔物能久書記世仰
多事尔百礼抒如何尔為加有武三十余利二止云年迄尔心
波有奈賀志止云物奈不立不通有邪流其天保十四年止

○日本書紀傳五

○百三

云流祁羊乃春正月乃六日乃日皇京下尔在畏所尔参利拜
奉利畢氏歸流道并過氏利吾不知尔不意毛古尔小一條第尔
坐止云流祁宗像大神乃御許尔参初氏年頃何處尔大座坐武
止尋渡流利都心波尔久堅乃天真名井尔振滌給比玉毛由良二
尔嬉志尊久崎門山尔御表止置志絡流身形并今毛正目尔
見奉流心思延其翌日余事起志筆并取氏書初多理尔思倍
思布任尔言尔出傳云倍尔布任尔詞尔續枝一部乃書卷并
書尔其甚容易尔事止成尔礼利尔身乃其尔骨并換多如久
在尔今迄不立不通流都志奈天之御柱止我奈質靈在尔奴倍太
志高尔街立并流以尔自來以降吾心波神乃大御心曾止弥高

尔弥廣尔鎮尔齊尔信尔仕尔奉尔流尔内尔平尔篤尔胤尔并師尔止尔仕尔倍尔學尔婆尔
思成尔出羽國尔乃秋尔田尔尔下尔流尔止一卷尔乃書尔并持尔旅尔乃裝
毛甚摠禱尔志出立尔奴尔礼加賀國尔尔波尔書讀說尔多尔人尔共尔并令
感尔越後國尔波平譽尔正平譽尔重尔吾學尔乃力并顯尔波佐出羽國
尔波尔吾師尔乃亡尔後尔五十日許尔在尔著尔多利尔初且驚尔夜吾歎
止久雖尔毛師尔止成尔弟子尔止成尔流尔其志尔并繼尔久尔許有尔祁尔几庸尔乃
輩尔等尔志尔師尔乃授尔流尔受尔其言尔并誦尔流尔程尔乃拙尔久尔芳尔枝尔心尔在尔并
波尔如何尔禱哉吾師尔乃可悅尔止枝尔尔顧尔流尔心出來尔利直尔平鐵尔胤
尔以尔茂尔梓尔乃中執持尔志尔其弟子尔共尔乃列尔十一月尔乃四日
止云日尔奈加波理多自其此方彼方止行巡尔良遠方此方尔行

○日本書紀傳五

○百廿四

訪此有禮人無彼處并行我如久一人其某甲我言并皆久
者無久為此百人不向倍百人從比十人不向倍十人順此十
名乃五百名不天雲乃高久貴久吾名并所知毛奈有和流其
田川郡不大山止云布大里有和此處不藤原光憲止云波其
國波物知止云人不在荒木田末壽我許不伊勢不學比
貞道乃御字慕比京都不上禮利人不其學毛跋志加良吾
并見知流人不其族掩野重義藤原光賢田村足根田村長柄
等字學氏教子止成和流漸不吾家門毛廣久盛不成和利自
其京都不上良武為氏江戶不到和流久乃乞留流學波氏
此不家居流事止成禮留聞氏譽正譽重波余利物并貢氏家字

令起光憲余利其子光胤并吾許不令侍不學乃勞并助不
其所余利此處余利物奈豐饒不令在毛奈有和禮此處不往
布事波實不吾我大神乃大御心止著明久有我上不平泰純
我女往子并吾妻止為流就不聞久彼我外祖止有流吉益氏
波嚴島大神不祈奉氏醫師乃街并大不得不天下四方不所
知多家奈流又其宗像大神乃大座坐須前內大臣藤原公乃
御內人奈流其外孫并其甲我妻不授賜比依世流即吾我大
神乃大御所為流奈事灼然彼者奈利自此後不家甚久成氏
活計乃便宜無程不甚及腦流事度乃有利光憲乃許余時
尔物并贈利其急事并救助流事一二度不在度遍久然

有流間尔五年尔經尔嘉永元年尔光胤尔波神府尔被召尔奉尔利尔愈
家毛身毛不安尔邪尔利尔程尔許尔有尔礼尔其尔大山尔乃里尔尔大座坐須尔八尋
梓尔搗尾大神尔仕奉流祿尔且藤原直勝尔遣尔世某甲尔字招尔氏以
前尔余尔利尔猶愈尔利尔久尔乃心打合尔此年尔余始尔定尔流尔員尔乃贈物
有流事尔成尔余尔利尔家毛安尔身毛平尔久尔在尔心進尔比終尔尔其年
乃十月尔余初尔嘉永尔乃六年尔乃冬尔尔至尔尔万尔氏祝詞講義尔止中臣
壽詞講義尔止二部尔尔莫大尔乃書典尔奈澤尔尔多尔尔成出尔氏掛卷尔毛
忍尔夜高十穗官尔天下所知者尔志遠天皇祖尔乃神尔乃大御代尔余
中今尔乃此大御也尔尔至流遠尔尔天神尔乃御子隨尔毛天尔尔坐神尔乃
言依尔志奉賜尔信利尔仕尔尔食國天下尔尔敷賜尔比行賜尔比天地尔止日

月止共尔百姓尔乎撫給尔比治給尔比趣給尔比平給尔布皇神尔乃道尔奈
八尺句尔聰尔乃如久尔曲也尔尔知良真澄鏡尔乃如久尔明亮尔尔十握劍尔利
乃如久尔心聰尔尔思得尔毛奈有尔止尔尔流人尔尔波不可言尔流事尔奈賀尔尔本尔利
此大業尔尔仕奉流事尔天津水影尔乃如久尔押伏尔尔世見行尔波所知
看須吾尔我大神尔波御手打掛尔夜守尔利日守尔利守導尔夜給尔比御
乎尔代尔利尔尔然有給尔布事尔止思尔倍別尔尔奇尔尔夜事尔止思尔波受尔尔有
流尔尔自其追繼尔日本書紀傳尔止云書尔乎著述尔志天地尔乃立留始
止世中尔乃起留尔所由尔乎明良皇神尔乃御所為万神尔乃御功用天
津日繼高御座尔乃大御業巖神之宮尔乃神事尔乃有狀尔波更尔奈臣
連伴造國造百八十部尔乃氏尔二乃由來尔名二乃起元尔乎正志辨

多知利上波高天原止天雲乃五百重我上波天壁立極美迄
毛下波極遠志云布根國底國止地下波底津石根乃限利
迄毛知良流限波知盡志中波此大地波一列乃物在利外
國乃末迄毛二柱御祖神乃生給波受云事波可有夜考氏竟
尔蛭兒波蝦夷島利初氏東北尔在流夷國奈事尔見完米又
淡洲波韓地赤縣利起氏西南乃方流蕃國止思定流見解乃
出來留事波上尔申我如久吾心波吾物尔非受大神乃大御
心如是又睦靈合氏令然有給流物止思倍此說共波吾言尔
出此吾說尔非受吾我大神乃事依志授賜倍大御言止受賜
利思澤布說等書註志三卷止云利始氏二十二卷止云尔至

利本數波凡七十一本有利是尔其二百五十五張尔書多十
月廿五日乃夜可見合夜事有氏此五卷止云尔見流尔四年以
前尔著述志世利書志尔有祀礼今見流尔力不足氏甚跋志心
知為尔心耻止所思流事有波其時乃非事尔今見頭倍尔學力
乃勝尔流奈試氏大神乃御靈乃身尔預比加波礼程尔知波
止微尔思立氏書改流此十一月乃十二日止云尔書畢尔奈
有祀礼其事大神乃宇豆乃大前尔詐白志乞奉久某甲我見
尔流陀斯流僻事波交流物尔並尔世人乃評尔可抱尔非受唯
後世尔已尔知流一人乃人乃為尔耻留事無流可久弥弊尔
弊尔給波學乃力餘有留迄尔天地尔思足尔波令得絡爾此今

日乃生日乃足日尔八度額突伎八度拜伏志慎美敬此恐美
恐美齋比白佐吾我大神乃御許尔参初流項余心尔係奉利
如久前内大臣藤原公乃御内流小一條社止申須其指尾大
神乃御蔭尔依利御氏子乃人共尔被助氏造改米仕奉利畢
此項新宮移乃事可有伎由予兼波礼其瑞宮乃内尔波大神
乃大御心毛平久安尔鎮定利大座坐(和送)想像利奉利愛久
嬉志悦志尊久所思流仕尔又此今日毛波志掛卷毛恐伎天神
御子乃新嘗乃大御政聞食給止天社國社乃皇神等毛尔千秋
乃五百秋尔相嘗尔進給布明立都天照國乃日宮由磐門押
張利天雲尔磐船淳氏天降給布千五百万乃神等毛尔又高山

短山乃存穗理余利天淳橋尔兼立志海原波邊余冲余浪穗
尔兼尔乘坐須山野海川乃神等千五百万乃御前毛併世持
齋仕奉流事乃由于聞食尔相宇豆那比奉利堅石尔常石
尔齋奉利茂乃大御世尔幸奉給布生日乃足日止天地止足
志照志相榮坐尔皇御孫尊乃大朝廷乃御爲尔五百都網延
太流如久天地止久伎迄尔皇大御學乃尊伎高伎廣伎厚伎
如神業尔仕奉流御恩頼尔報奉尔爲藤原細俊尔命世真金
吹久吉備乃中山帶尔爲流細谷川乃清久麗伎真釜尔天香
山乃忌火尔鍛志令作多留三枝乃三乃大御劍尔目乃耀久黄
金乃裝比善尔仕奉利彩色乃御幣尔納奉利此乃寶劍尔掛

卷波甚毛恐在礼神財止捧奉利又擲明流清伎
眞玉字皇神乃大御心毛圓尔磨成志仕奉利錦乃御褥紫乃
厚總紅乃御覆尔至迄尔備奉此乃瑞珠并中津宮乃神財
止奉利止氏去志安政乃初年尔某甲我持参行尔奉利納多
邊津宮乃齋鏡止捧奉留神財止合世此三乃神寶并吾我宗
豫大神乃大御許尔各毛各毛配捧奉止今日奈其御國尔贈
奉留狀并手掌毛摺亮尔打上毛惠良尔鏡榮延聞食
此天地止日月止共尔見明流物止齋鏡尔打向波給布如久
某甲我家并天照志見明尔給并日每尔讀說明良仕奉流皇
大御書乃大御學并天知也日月乃如次天下尔令明尔給比

此五乃阿夜尔阿夜尔清久麗美志有此四方八面尔韻此滿
此光曜尔弥明尔利明尔弥照尔照徹尔流如此瑞珠乃清久麗
美志心止皇神等乃大御心尔相通此限尔志事無尔鬱尔志
事無尔此仕奉流皇大御書乃大御學尔明尔流尔在此神代乃古
事眞清明尔說書尔天地乃共長久遠久照志令明給此此乃
寶劍并奉流事波上波皇御孫尊乃大朝廷尔仕奉流親王等
王等臣等百官人等并己我亦尔不令在惡心邪意無尔令仕
奉給此高天原尔事始尔皇御孫尊乃大御食命良万食國天下
尔敷給此行給布天津宮事乃仕尔清伎明伎正伎直伎誠乃
心并以此仕奉給尔其志背伎天神御子并茂如志奉利教

高_夫理_大君_君備_為天下_手據_此奪_布頌_多夫_曲武_良人_共子_彙
此_給比_平介_給武_大御_劍止_捧奉_利中_波天下_在止_有流_武
士_乃人_共伊_此項_止成_波異_國風_乃火_筒美_事止_為武_神
及_行來_流神_代乃_大御_手振_許易_武牙_由矢_刺武_軍圍_年事_手
忘_武劍_刀身_取副_流心_毛止_武形_波皇_大御_國乃_又亦_為武_比
心_波戎_毛武_止禽_獸如_須毛_民乃_心受_持知_已亦_其殃_災比_比
征_夷府_子始_武國_乃宰_持共_亦及_倍流_皇神_等乃_大御_按威_武
手_以武_取挫_夜言_和給_武武_裝乃_大御_劍正_捧奉_利下_波皇_神
等_乃御_靈亦_資武_天下_四方_乃人_共乃_年遍_久被_欺武_相交_武
漢_意佛_心奈_稍改_利直_比行_久時_止櫻_花韻_布如_及今_真盛_武

尔_弘利_行波_初武_鈴屋_乃餘_乃韻_夜亮_二尔_天下_乃人_心改_利
科_戶乃_風乃_天乃_八重_雲年_吹掃_布氣_吹舍_乃言_行波_武四_方
乃_御氏_毛皇_神乃_大道_手尊_美奉_利皇_御孫_尊乃_大朝_廷年_仰
奉_流心_奈年_尔勝_利月_尔勝_利日_尔勝_利時_尔勝_利天_原蔓_許
雲_乃廣_久遠_夜功_毛立_知德_毛成_左成_都可_伎中_今乃_此大_御
代_尔為_武其_皇大_御學_乃業_手受_繼久_某甲_武然_許利_可畏_夜
皇_神等_乃大_御靈_手蒙_奉利_乍尔_一日_一夜_毛空_志久_可有_非
禮_此五_卷尔_當流_本乃_再稿_波書_畢利_復元_乃所_尔返_利其_二
十二_卷乃_二百_五十_六張_余次_三尔_夜半_晚時_止云_受勤_米結_利
利_仕奉_武狀_波今_八年_我程_尔凡_三百_卷許_尔書_成志_仕奉_利

次波祝詞講義止中臣壽詞講義乃止淨書并仕奉利其事畢也
後波此日本書紀傳并委曲尔正志記左事生涯乃我業止仕
奉止為日每尔皇神等乃尊彼高彼廣彼厚彼御恩頼乎天
水仰乞祈奉流我家波并蹟此足蹟乃事共不令在也常毛祈
奉流指尾大神乃御氏子乃人共尔家業并被助也今書流草
稿波其大神尔合捧奉給此天下乃為尔万世乃後代乃為尔
天之御柱國之御柱止國鎮毛可成彼底寶三書止合書給并波
尔金銀并欺奪比皇大御書并可求彼價并令廢流恩及人共
并不合近也物等并豐饒尔令在給此又處三利訪來利吾并
并妨介皇大御學乃業并令怠流風流入乃遊士止云者并遠

放給比情安尔平久安久令仕奉坐止神毛在礼人毛在礼此
皇大御書乃大御學尔障流惡志夜神穢彼又共并此大御劍并
以也言向鎮給止開合也此三口乃寶劍并其瑞珠止諸共尔齋
清米仕奉也今日乃吉日尔其御許尔贈奉利奉上良久江上
善章尔寄世百重山隔在流道并玉梓乃書乃便利事傳也各
其官二尔納奉流事乃田并開食也此年頃某甲我家尔齋
子孫乃八十連聯尔續彼可仕奉彼皇神乃大御身形止奥津
島山國毛照加光曜尔黄金乃塊并授賜比依賜開祈奉利來
年乃夏乃始尔中津島在流遙宮乃御許迄御迎尔参利令侍
給止開奉流物波精米乃御飯并玉筥尔盛盛八盛尔盛捧介御

酒波 醴上高知利 醴腹滿雙 汁尔實尔 称辞竟奉利 大野原
尔生物波 耳菜辛菜青海原尔佳物波 鱒能廣物鱒能 狹物奥
津藻菜邊津藻菜尔至迄尔 百取乃机代物止奉上尔御服波
明妙照妙荒妙和妙五色物尔称辞竟奉 吾我大神尔始奉
利諸乃皇神等乃大御心毛明尔久所聞食 尔愛乃盛尔 相宇豆
比那給比相冗奈給比相助介給比相幸倍給武尊尔高尔廣尔
厚尔御靈尔 資尔家尔 身尔八十 枉津日尔枉惡事在 尔受尔 咎過
有尔幸尔 神直日大道日尔見直志 闡直坐尔夜守利 日守尔守
惠美尔幸尔 給比其甲我家尔起志 身尔令立給比 比清尔明尔 正
彼直尔誠尔 乃心尔以尔 皇神等乃御手尔代利 尔仕奉 流皇大御

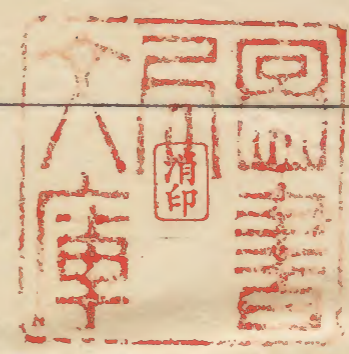
書乃尊尔高尔廣尔厚尔 皇大御學乃業尔妙尔 奇尔尔志 可美名
尔子名 尔五百名 尔員持 尔許 尔太忠尔 功尔尔志 尔令在 尔給比 尔掛卷
尔現御神 尔天下所知 尔食須 尔皇御孫 尔尊 尔乃大御代 尔尔世 尔乃
大御世尔止 尔堅石尔 尔常石尔 尔齋 尔比奉 尔利 尔五十 尔糧 尔乃大御世 尔尔幸奉
利天下平穩尔尔 尔公民令 尔富榮 尔給 尔閉 尔今日 尔乃生日 尔乃足日 尔乃朝日
乃豐坂登尔尔 尔八度 尔額突 尔尔 尔八度 尔拜伏 尔尔 尔穗積朝臣 尔重胤 尔妻 尔平朝
臣住子推子穗積朝臣重兼又淡路國尔尔 尔在 尔流 尔母 尔麗子 尔尔 尔尔
代尔利 尔穗積朝臣 尔重胤 尔尔 尔慎 尔美 尔敬 尔尔 尔恐 尔美 尔恐 尔美 尔願 尔奉 尔流 尔事 尔乃由 尔尔
天香山尔尔 尔天真 尔男鹿 尔尔 尔耳振 尔立 尔尔 尔聞 尔食 尔尔 尔十六 尔自物 尔膝折 尔尔 尔尔
鷄事物頭根突拔尔尔 尔恐 尔美 尔恐 尔美 尔齋 尔事 尔尔 尔仕奉 尔尔 尔止 尔白 尔須

辭別氏白入八束穗乃出羽國茂穗乃田川郡御心字大山乃
里尔称辞竟奉流八尋拵指尾大神級長津彦命級長津姬命
倉稻魂命月夜見尊四前大神乃大御前子始奉氏其國乃皇
神等乃大前尔白佐掛卷毛恐使大神乃御氏子乃人共字吾
教子尔事依志授給余信流聞初氏日言大神春日大神乃敷坐
流鶴岡乃人共春日大神賀茂大神乃鎮給布賀茂乃人共字
始氏其乃國內尔在流千人五百人尔神乃如久仰彼貴万君
乃如久傳彼敬波延皇大御書乃大御學乃業字以氏安那比
教趣氏有流中尔藤原光憲伴足根藤原重義藤原光賢伴長
柄藤原直勝摠積秀直等乃人等余利年每尔貢乃金銀字贈來

利家字身字心安久令在氏已尔祝詞講義止中臣壽詞講義
止二部乃書乃草稿成氏大神乃御許尔贈奉利余又日本書
紀傳子真盛尔著述志仕奉氏次尔捧奉利大神乃御靈威
乃弥高尔弥廣尔足比波流事字告奉流奈吾家乃業止有字
其元尔趣尔給布吾宗像大神止御力字戮世大座坐氏正尔
令然有米給布事止日每尔辱尔尊尔奈有尔此項某甲我家
乃系記字或人乃許余得氏見尔流掛卷毛恐使大倭根子
天皇乃大御世乃項吾遠祖從五位下守出羽大掾摠積朝臣
重盈止流入尔奈其國尔享持氏國府尔下位氏有流都字正
志記志有尔合氏世大神乃御社波某甲我已尔考證流如久其

國乃惣社尔大座坐波世國府余利殊親尔坐利吾祖
波其國尔亡加志世乃涯利仕奉礼大神尔在志事尔今尔
至尔乃不知尔奈有尔祈流吾波淡路國乃御民尔在利如何尔
為如御恩頼尔大神尔蒙奉武流良吾許曾十里放利生出流多者
奈利如何尔禱加其國尔然睦靈合良武大神尔辱尔奉利尊
祈奉流尔每其意不審尔思渡尔今吾家乃氏文字見尔
實尔大神尔波尔雖恐尔今此皇大御學乃事尔就尔耳乃事尔
非受某甲我家乃為尔甚止事無尔謂有流大神尔止尔奈大座坐
留故是尔以尔吾氏社乃皇神等尔共尔我產土神尔止相並尔
子孫乃八十連屬尔立尔乃春秋乃御祭善尔仕奉尔大神乃

御名忘尔齋奉尔物止祈白須事乃由乎平尔分安尔分所聞食尔
常毛御靈尔蒙奉尔此仕奉流日本書紀傳乃草稿尔今八年
許乃間尔三百卷尔書成尔大神乃神庫尔今奉給尔此仕奉
流說言尔以尔皇御孫尊乃大朝廷尔今奉貢給尔此十年五百
年乃後代尔此言乃被行尔直伎正伎神代乃御年振尔今五
復給尔外尔四夷八蠻尔手足乃如久召使尔給尔波大御按
威尔曜夜加合奉給尔内尔皇御孫尊乃大朝廷尔仕奉流親
王等王等臣等百官人等天下公民尔至迄尔此高天原尔事
始尔皇御孫尊乃大命尔良万食國天下尔敷給尔行給尔流國法
并過犯須事無久勢結尔令仕奉給尔實尔此皇大御書乃大



御學乃尊伎高伎廣伎厚伎驗并頭給此此事尔因此掛卷毛
 恐伎天神乃御子隨毛天尔坐神乃事依志奉給志任尔此所
 知者來流食國天下并安介平介车久佐加今立榮給閉已我
 私乃小事波願奉良皇神乃御為皇御孫尊乃御為天下乃為
 尔後世乃為尔一向尔此皇大御學乃大業并助給此幸給閉
 從今波産土大神乃相座尔齋在奉止安政乃四年止五年乃
 冬十一月乃中卯日尔事始此大御祭任奉止德積朝臣重胤
 慎美敬此恐美恐美申賜止白頌

明治七年七月廿日校合 菅政友

